

2025 大阪万博

WAKAZO 宣言



The next-generation Platform of Co-creation and
The next-generation Creative Movement "EPIGENETISM"

若造

わかぞう

【若僧・若造・若蔵】

若いやつ。未熟者。「一が何を言うか」

日本には「若造」という言葉がある。

「若者」とも違う、「子供」とも違う、「青年」とも違う。

英語でも表現がしづらい、日本特有の言葉だと言える。

日常的に使う際、いい意味で使用されることは稀である。

たしかに私たちは未熟者だ。荒削りだ。

でも、誰かを救いたい気持ち、未来を想う気持ちは誰にも負けない。

だから、胸を張って言おう。

私たちは、私たちが、「若造」だ。

Wakazo/wakadzo: /n.
1 an adolescent, 2 a naive and inexperienced person.

Neither synonymous to the words "youth" and "adolescent", the precise definition of the Japanese expression "Wakazo" cannot be fully expressed in English. This word rarely carries positive connotation as it stresses how naive the person is due to lack of life experience.

Nevertheless, we take pride in calling ourselves "Wakazo".

Why?

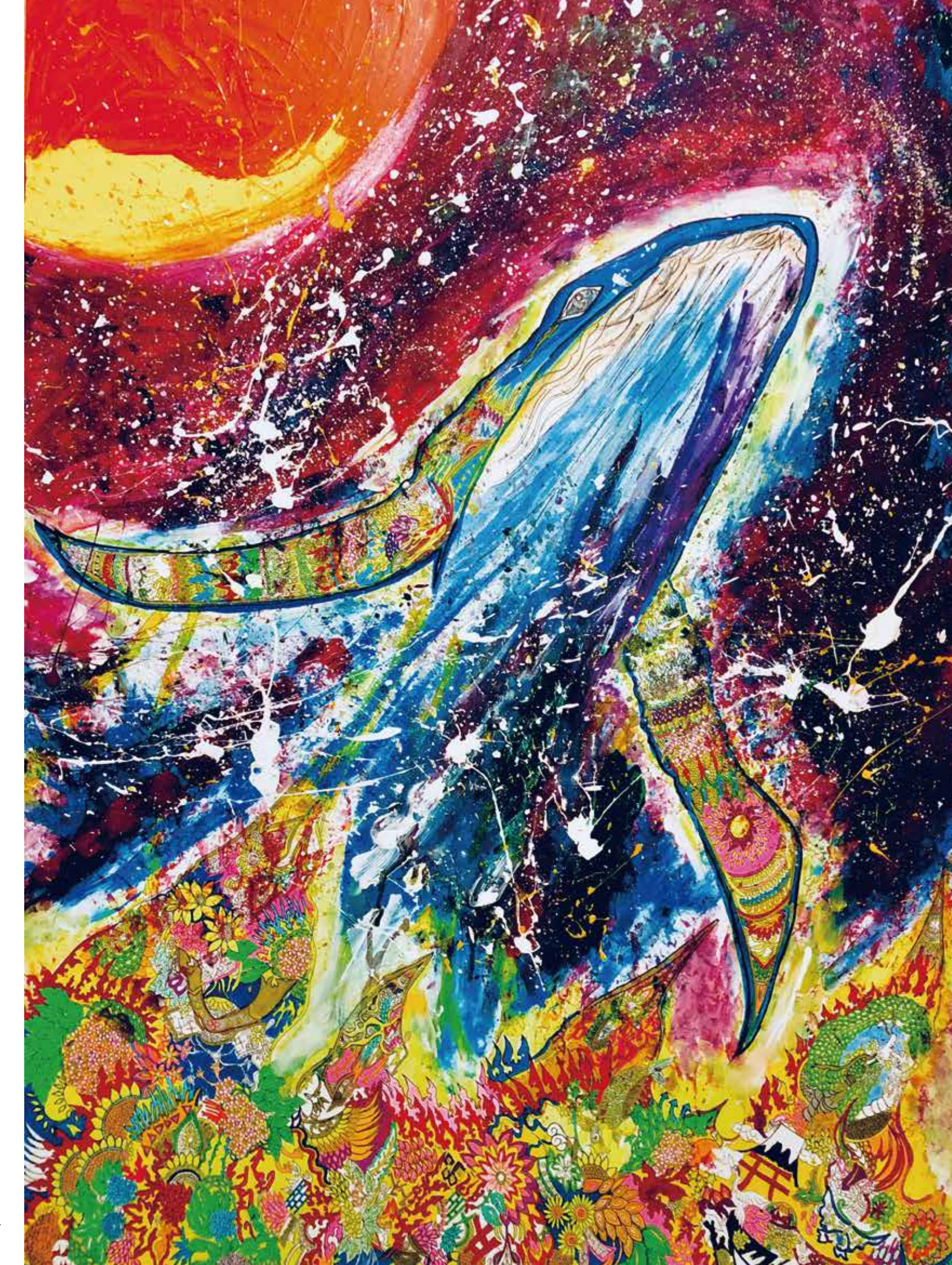
Because despite how adults may call us naive, we have a dream to save others.

Because however the society may laugh at us, we have infinite dreams for a brighter future.

Because although there is no reassurance that we will succeed, we pour our hearts and souls into realizing our vision.

And so, we hereby declare with confidence.

WE ARE "WAKAZO".



WAKAZO 宣言

The next-generation Platform of Co-creation and
The next-generation Creative Movement “EPIGENETISM”

Contents

挨拶「いのちと向き合う万博、未来社会を」

WAKAZO HISTORY

WAKAZO EARTH -他者のいのちと向き合う-

WAKAZO EARTHサービス紹介

WAKAZO Ideas

WAKAZO Backpacker Project

WAKAZO PAVILION -自分自身のいのちと向き合う-

WAKAZO PAVILION –Savings lives-

WAKAZO PAVILION –Connecting lives-

WAKAZO PAVILION –Empowering lives-

WAKAZO 宣言



いのちと向き合う万博、未来社会を。

2016年、私たちは「2025 大阪万博誘致 若者 100の提言書」を提出した。万博でこれからの生き方を問いたい、人々の価値基準を揺さぶるような強烈で根源的な「問い」がこれからの社会に必要なと感じ、二年間活動を進めて来た。その中で感じたもの、それは「いのちと真正面から向き合うことの難しさ」である。いのち、それはすべての生物が有しているもの。と同時に、目に見えず感じにくいものでもある。

自分とは何か、目の前にいる人は誰なのか、その場にあって当たり前だと思ってしまうものを感じることは難しいことである。

国が提案する 2025 日本万国博覧会のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」。輝かせたい本当の「いのち」とはなんだろうか。2018 年、私たちは、「他者のいのちと向き合う」ことと「自分自身のいのちと向き合う」ことを目指し、二つの活動を行ってきた。

一つ目は、世界中の人々が抱える課題と未来社会に期待するアイデアを発信できるプラットフォーム「WAKAZO EARTH」の完成である。世界中の若者一人ひとりの課題に向き合い、相互に課題解決を目指していくことこそ「他者のいのちと向き合う」ことだと考えた。私たちは世界 10 カ国を旅し、計 50 カ国 300 人を超える若者と出会い、彼らの生の声を一つのオンラインプラットフォームにて世界へ発信している。

二つ目は、自己を投影し感じることができる「WAKAZO PAVILION」の完成である。「目に見えない概念に、具体的な形を与える」アートの方に「自分自身のいのちと向き合う」きっかけを導くことができると考えた。特に近年注目を集める研究分野である「エピジェネティクス」から着想を得て、計3分野6つのパビリオン構想案を作成した。

本冊子では「WAKAZO EARTH」と「WAKAZO PAVILION」の紹介を通して私たちが作り上げたい未来社会と万国博覧会を提唱する。「WAKAZO EARTH」で声を上げる若者が、2025 年「WAKAZO PAVILION」で活躍する。WAKAZO を通してすべての人々が「いのち」と向き合い、これからの「生き方」を問う。そして、夢洲から世界へ、若者から課題解決のうねりを起こし、世界中の「いのち」を輝かせる。

2018 年、WAKAZO はここに宣言する。

2016

2017

2018

2025

12/ inochi 学生・未来フォーラム 2016 にて
「2025 大阪万博 若者 100 の提言書」 発表

03/ WAKAZO.OFFLINE inochi 学生プロジェクト × AIESEC
WAKAZO.OFFLINE inochi 学生プロジェクト
全国高校生徒会大会にて WAKAZO.ONLINE 模擬体験企画「WAKAZO 大喜利」開催
WAKAZO LEADARS MEETING1st 大阪府庁にて開催



04/ WAKAZO.OFFLINE inochi 学生プロジェクト (京都)
WAKAZO.OFFLINE@ 東松山高校

05/ 万博に対する若者のアイデア投稿サイト「WAKAZO.ONLINE」開設

WAKAZO 公式 Instagram, Twitter 開設
WAKAZO.OFFLINE × NPO 法人地域医療連携団体 .Needs(博多)
WAKAZO.OFFLINE × 日本薬学生連盟 (大阪)
WAKAZO.OFFLINE@ 大阪大学 (大阪)
WAKAZO.OFFLINE × TAO(博多)



06/ WAKAZO.OFFLINE × 東北若者 10000 人会議 (宮城)
WAKAZO.OFFLINE × KAICHI (和歌山)
WAKAZO.OFFLINE × くまもと若者会議 (熊本)
WAKAZO.OFFLINE × 智弁和歌山

Twitter アカウント「2025 大阪万博へつながるコンペ」開設
WAKABLO ~万博を若者が創って造り出す WAKAZO.ONLINE のブログ~初回投稿
WAKAZO. OFFLINE 参加者 500 名突破
Presentation ホリエモン万博 登壇

07/ WAKAZO.OFFLINE inochi kickoff
Release, 未来を担うクリエイター発掘プロジェクト「WAKAZO CREATIVE COMPETITION」
(建築 パフォーマンス イラスト デジタルクリエイティブ 映像 英語スピーチ)



08/ WAKAZO.OFFLINE@ 天王寺 (GCA)
WAKAZO.OFFLINE@MFF(GCA)
Event,「WAKAZO CREATIVE COMPETITION Performance category」Final Event
WAKABLO100 記事投稿

09/ WAKAZO.OFFLINE × JPTSA (神戸)
WAKAZO.OFFLINE@ 灘高校
WAKAZO.OFFLINE KOREA 開催



10/ WAKAZO.OFFLINE@ 奈良女子大附属高校
WAKAZO.OFFLINE@ 三重
WAKAZO.OFFLINE × AIESEC 京都
WAKAZO.OFFLINE × 立命館大学薬学部 やくけん R (滋賀)
WAKAZO. OFFLINE 参加者 9 0 0 名突破
WAKAZO. ONLINE アイデア投稿数 2 0 0 0 個到達
東京駅「KITTE」万博誘致イベント登壇
ラジオ SHELLY PHYTHM 出演



11/ Event,「WAKAZO CREATIVE COMPETITION Architecture category」Final Event
Presentation, inochi 学生・未来フォーラム 2017 にて



12/ Presentation BIE ケルケンツェス次長にむけて



03/ Presentation, Bureau International des Expositions(BIE) 訪日にて WAKAZO Pavilion 構想発表



04/ Presentation, Kobe078 登壇
Release, 2025 日本万国博覧会誘致委員会が後援

06/ Presentation, 第 163 回 BIE 総会にて WAKAZO 登壇



07/ Presentation, NEC i EXPO 登壇
Event, WAKAZO kick off MTG にて 夢洲現地視察、WAKAZO Pavilion 構想概念決定



09/ Release, WAKAZO Backpacker Project
(カンボジア タイ トルコ エジプト ウガンダ ルワンダ ブラジル オランダ ドイツ フランス)

Event, WAKAZO Backpacker Project × 国境なき子供達
Event, WAKAZO Backpacker Project × マヒドン大学
Event, WAKAZO Backpacker Project × saraya
Event, WAKAZO Backpacker Project × Huye Mountain Coffee
Event, WAKAZO Backpacker Project × reform studio
Event, WAKAZO Backpacker Project × サンパウロ大学?
Event, WAKAZO Backpacker Project × オランダのどの大学?



Event, WAKAZO Pavilion Hackathon @Tokyo
Presentation, 大阪維新の党 懇親会 ~大阪の成長を、止めるな~ 登壇
Presentation, 大阪・関西が切り拓く「いのち輝く未来社会」シンポジウム 2025 万博を大阪・関西に! 登壇
Presentation, FM OH! [WELCOME to OSAKA~Expo2025] 出演



10/ Presentation, TedxOsakaU WAKAZO 登壇
Presentation, フランス・パリで開催された万博誘致フォーラムにて登壇
Release, WAKAZO EARTH
Release, 2025 日本万国博覧会誘致委員会公式 HP(英語・フランス語) へ WAKAZO ページの実装
Release, アニメーションムービー「Co-creation for SDGs」発表



11/ Presentation, inochi 学生・未来フォーラム 2018 にて
Release, WAKAZO PAVILION -Epigenetics Architecture-

WAKAZO EARTH

- 他者のいのちと向き合う -

他者のいのちと向き合うには、世界中の若者の声に耳を傾けなければいけない。

そういった思いから私たちは、世界中の若者からの課題提示、そして未来社会へのアイデアを投稿するプラットフォーム「WAKAZO EARTH」を作成した。世界中の若者が、自国の課題をオンライン上の地球儀の中で共有し、世界にはどのような課題があるのか、現地のリアルな背景とともに知ることができるものである。

さらに、オンライン上の活動のみならず、私たちは今の社会の課題と若者の声に直接耳を傾けるべく、「WAKAZO backpacker プロジェクト」を立ち上げた。WAKAZO のメンバー 2 人が世界 10 カ国の旅を通しながら、世界の課題が眠っている現場を見て、現地の人にインタビューを繰り返し、社会課題に取り組む人とディスカッションを行い、その結果 300 人以上の若者から生の声を集めた。

私たちは、世界の声を集めてきた。

私たちは、世界の課題を、この目で見てきた。

私たちは、一緒に課題を解決していく世界の若者とつながってきた。

ここからは、「WAKAZO EARTH」と「WAKAZO Backpacker」の軌跡、そして若者の声に向き合うことで見えてきた、私たちなりの課題解決のヒントを提示する。

世界の人口の半分を占めるのは、若者。私たちは世界中の若者と一丸となって、いのち輝く未来社会を目指し、新たな共創の仕組みを実現することをこれからも目指していく。



WAKAZO EARTH

Co-creation for SDGs and Society5.0

世界中の若者の声を世界へ発信するためのオンラインプラットフォーム。
若者が感じる課題と SDGs 達成のためのアイデア、
そして万博と未来への期待の声が集まっている。
SDGs とは「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて
記載された、2030 年までの国際目標である。
17 のゴールで構成され、それぞれ色が振り分けられている。
WAKAZO EARTH では若者の声一つひとつを 17 のゴールいずれかに分類し、
その振り分けられたゴールの色を用いて 3D 地球儀へ実装した。
また、若者の写真を掲載することで、まるで目の前にいるかのような
当事者意識を持って一人ひとりの声と向き合うことのできるデザインをした。
SDGs でのアイデア検索、アイデアのワード検索、ランダム表示などが可能。

地域の課題ではなく、一人ひとりの声を紡ぐことを通して、
一人ひとりのいのちと真正面から向き合いたい。



若者一人ひとりの声を紡ぐ

SDGs17 のゴールを 3 つのカテゴリーに分類し、それぞれのアイデアの中でどのような言葉が多く使われているのか、テキストマイニングツールを用いて調べた。
その後、それぞれ頻出ワードであった「health」、「education」、「poverty」で全アイデアを対象にワード検索を行なった。
すると、分類したカテゴリー以外のゴールにまつわるアイデアも該当した。
課題は決して独立しておらず関連している、可能性を示した。

Saving Lives



made energy society young healthy make save everyone
stands environmental pollution action problems poor
major mental share working countries use solve public
planet japan need awareness health problem food
make one face improve good people many
change care help lot life climate want way
change high world hunger country government
cheese high important non reduce common system
creating sector years physical cars serious earth clean

Empowering Lives



improve want language
solve jobs sustainable cultural
big teacher university able countries opportunities
educational economic teachers school got bad lot idea take
government high education need think knowledge
growth know student education need pay live
students many country people good youth help
poverty new ensure teach poor system good change help
young energy quality problem better world free social
equality learn higher international provide children different
local make go schools believe increase order

Connecting Lives




justice better think going find work
know gap access think good educational inequality
society difficult let go live help peace government new
developing social problem need get problems feel
traditional work people young solve
modern idea poor poverty many make reduce
communities strong air come country give public way
care learn gender equality big give important
these economic women one world education money
first take political countries equal society change



WAKAZO Ideas

Over 50 country
Over 300 people



3 GOOD HEALTH AND WELLBEING Kenya
Online Hospital : Driving Tool for Health by 2030

Good Health and Wellbeing is far from being realized in Kenya, as in many developing countries. The greatest setback in delivering health care is the inability to integrate Information Technology(IT) in our health system. We need IT to keep accurate patient records, do proper follow-ups, prompt medical appointments, share health information among hospitals and most importantly improve public health through research and evidence-driven policies. In Kenya, we rely on paper work for records. This cannot help us understand our population's health from the 46, 000 health facilities in the countries. We need to integrate management information systems in all aspects of health to achieve Good Health and Well being by 2030. If we can put all hospitals in one system in a semi-autonomous way, we can create One Online Hospital countrywide.


ケニアでの健康・幸福度は世界の中でも遅れている。特に、医療現場では、まだ紙媒体での作業が中心であり、ITの導入により、多施設の管理が可能になり、健康・幸福度の向上に大きく貢献できる、というアイデア。確実に実現していきたいプランだと思います。



5 GENDER EQUALITY Libya
Historical Challenge in Libya

We need to affect the focus on the Gender Equality studies in Schools and Universities, and between the normal people in the community, and the connection between that topic and building a strong community and great institutions, Especially that Libya is having a significant period of its' history.We must put in the consideration that there's no way we can build an advanced, appropriate, modern society without these principles, starting from Accepting our differences and give the full equal rights to the whole women worldwide.


リビア社会が次の発展へ進むため、もっと男女平等な教育を取り入れるべきというアイデアです。リビアが大きな歴史の中でターニングポイントを迎えているという彼の声に気づかされました。#metoo など女性の権利について多く声があげられるようになった世の中の勢いをこのような若者の意見が後押しするのでしょう。



4 QUALITY EDUCATION United States
Education Chance equality

Lack of self-defense in school. More classed on how to deal with mental health, bullying, human trafficking, pre-cautions of danger. The school should provide the student an opportunity to discuss each other about above problem. And also their family should discuss with them.


教育現場におけるいじめなどによる自己肯定感の欠如が問題であり、それについて話し合う機会を学校側、そして家族が積極的に設けるべきというアイデアです。いじめというのはなかなか無くない課題ですが、話し合い、歩み寄りといった小さな努力を重ねていくことで打開できれば本当に良いと思います。



8 DECENT WORK AND ECONOMIC GROWTH Moludova
Stable politics and economics are needed

Distribute the Jobs to the whole country
Facilitate the decentralization of industries. In some countries like the UK, all companies are in London. Creating an overpopulated, rich area, and leaving the rest of the country in poverty. This creates a situation where people living in London, have good jobs, but awful living standards, and the rest of the country where people are not able to find decent jobs to sustain themself. This caused most of the poor areas in western Europe to be in UK. Forse Companies to decentralise, so that the jobs can sustain people in the entire country, not just the ones living in a specific area.


モルドバに住む彼女は、自国がヨーロッパで 1 番貧しい国である理由を、国のトップが安定しないことだ、と指摘しています。実際に自分の友人たちは、風俗で働くしかない、というショッキングな現状も伝えており、課題の深刻さがうかがえます。



11 ECONOMICALLY SOUND CITIES AND COMMUNITIES Columbia
Going further

It's not surprising that with the increase of the populaton there has been an increase in consumption. We have been polluting our planet for way too long, depleting all its resources. One way to combat this is to make our cities and communities sustainables, by reducing plastic use, by creating eco-friendly solutions to transportation, by growing our own food in communitary orchards and work together to make our society based on cooperation instead of rivalry.


人口増加とともに消費が増え、ゆくゆくは資源がなくなっていくのではないかと、という課題に対し、持続可能な社会を作るためには、プラスチックの使用を制限する、など環境面の配慮に加えて、人々がライバル心ばかりをもつのではなく、協力していくことが大切だと述べています。「環境への配慮」と提唱することは大切だけれど、それを実行していくのは人間。その人間の心理にまで触れ、実行を促進するような解決策を提唱している点で、秀逸だと思います



14 CLEAN WATER AND SANITATION Italy
Fer vehicles, more peants

I think that a good measure that should be taken in order to face the problem of pollution an be introducing days in which cars or engine - powered vehicles must not be used and instead of it promoting the car or bicycles and long an food walks. Another one could be plenty more plants and mees and building parts.


環境汚染を防ぐためには、徒歩を推奨するよりも、自動車を使用してはいけない日を、日数を決めて設定することが有効だと述べています。また別の解決策として、植物を植えることも提唱しています。世界で画一の解決策は通用せず、その国に住む人々の文化、習慣、価値観に合わせた解決策が必要だと実感できる解決策だと思います。



17 PARTNERSHIPS FOR THE GOALS Unitde States
Partnership with...

To achieve gender equality, reduce the levels of inequality, implement decent work and economic growth and have peace and strong justice institutions it is important to include minorities and women in the decision making process. More people in these groups should be in key positions within congress, the supreme court, and the senate so the measures that are taken have a positive impact on all stakeholders instead of just a few. More-over, for industry, innovation, and infrastructure, sustainable cities and communities, and partnerships to achieve the goal, it is crucial that we keep diversity and respect as core values. It is also advisable that we generate awareness of the importance of becoming more eco-friendly and how it can improve our life quality through campaigns and social media posts.

アメリカ合衆国において、社会が発展していくためには、マイノリティの地位向上が必要だ、というアイデアです。メディアを通した普及啓発など、具体的な解決策についても述べられており、課題の大切さ、社会を良くしたい、という彼女の強い思いが感じられます。



1 POVERTY Uganda
Poverty over the world

I feel here is a lot of poverty in the entire world many a result of unemployment political instabilities and many other social problems such as discrimination in many social aspect such as cases stain color nationalities and language better. I think this can only be checked by government invention to produce better result.

国家公務員が国内の仕事を一掃しているために、貧富の差が解消されない、世界での地位を気にするのではなく、まずは国内の課題に向き合うべきだ、と政治背景から国内の格差に言及しています。その国に住んでいる若者だからこそ発信のできる、力強いアイデアだと思います。



2 ZERO HUNGER Thailand
To avoid hunger problem

It was a major concern for the world to end hunger problem. Therefore, it is to take serious action in order to end it. Every citizen on earth should be able to have ability to afford basic needs. Every government in every countries should take serious action to solve this problem immediately and sustainable way.

飢餓は世界の中でも、永遠の課題であるがゆえに、各国が真剣にアクションを起こさなくてはいけない、と呼びかけています。途上国だけでなく、先進国でも、目を向ければ「飢餓」の問題は、根強く残っている。そんな、悲惨な現状に、はっと気づかされるアイデアです。



4 QUALITY EDUCATION Indonesia
The education

the education is the key of the growth of the country. And its really important to Indonesia. Giving the knowledge about right man in the right place, since a young age indonesian need that, because some indonesian even until graduated from university, indonesian still doesnt know about what will they do

大学卒業後、何をしていたかわからない若者のためにも教育をしっかりとすべきというアイデアです。日本でも大学卒業後の就職に不安や疑問を抱く若者が多いため、このアイデアに共感できました。多くの学びに触れることで、若者の核が醸成されるのだと思います。



6 CLEAN WATER AND SANITATION Turkey
garbage separation

Polution; not enough garbage cans, people do not consider separating their garbage. Suggested solution; ore garbage cans, people need to be educated on garbage separation


トルコでは、「ゴミの分別」という概念が浸透していないので、教育によって浸透させたい、というアイデア。もはや当たり前になっている「ゴミの分別」について、日本においては、思いを馳せることは難しいので、現地に赴いてこそ気がつくことのできる課題・解決策だと思います。



7 AFFORDABLE AND CLEAN ENERGY Slovakia
Renewable Energy

Not enough renewable energy production. We need to focus on production of clean energy in order to create a sustainable world. With fossil fuels being used in such amount we are destroying our planet. Main idea is to educate people about the impact of fossil fuels, about the importance of recycling and trying to help develop new and better technology.

持続可能な世界のためには、再生可能エネルギーの推進が必要だとし、そのためには、石油資源の限界やリサイクルの重要性について教育する必要があるというアイデアです。日本でそのような教育は浸透してきているので、日本が手を貸せるアイデアだと思います。



8 DECENT WORK AND ECONOMIC GROWTH Greece
economic problem

The main problem is decent work and economic growth because recently there has been an economic crisis which ended up in destroying the corrupted economic system, The corruption was in state bureaucratic organizations and overconsumption. Solution is simplification of state institutions.

ギリシャの深刻な経済危機、そして経済体系の崩壊を経て、これからの国の財政面での成長、仕事増加を求める声が上がっています。そのために官僚的ではなくもっとシンプルな体制が必要だというアイデアです。未曾有の経済危機を若者の目線から客観的に捉え、冷静に見つめたアイデアだと思います。



9 AFFORDABLE AND CLEAN ENERGY Lebanon
Electricity

My country is Lebanon. It's biggest problem is Electricity, It is divided between the public and private sector. Until now the government by its own cannot provide electricity 24/24 hr. Solution is they must stop steal and dividing the cheese between the government and parties components.


政府と民間との事業分担当がきちんとできないために、レバノンでは、電気の供給がうまくいっていない、という課題に言及したアイデアです。ライフラインの基本である電気が、国を守るはずの政府によって妨げられている、という、深刻な状況を伝えてくれています。



10 REDUCED INEQUALITIES Japan
Colorful handicapped goods

To reduce inequality between healthy persons and handicapped persons, make goods for physically handicapped persons more colorful and gorgeous. If wheelchairs or artificial legs have many variations, handicapped persons would enjoy being more stylish

障がい者と健常者とのギャップを埋めるためには、障がい者をもっとカラフルにしよう、というアイデアです。具体的には、車椅子をもっとカラフルにしたり、義足をもっとスタイリッシュにしたい、という解決策が提示されている。想像するだけでも、わくわくするような未来を実現できそうな、夢のあるアイデアだと思います。



12 RESPONSIBLE CONSUMPTION AND PRODUCTION Turkey
consumption harms nature

Responsible consumption and production is a huge problem not only in Turkey but also worldwide. Still, I think Turkey is one of the countries where the problems is biggest, because Turkey used to be an afsonia country but has become very capitalistic, which of course fostered consumption. It harms the nature most, when it is done and maintained without thinking and responsibility towards the peanet in all aspects.


きちんと考え、責任ある消費・生産をしないと、環境を害することになる、という課題発見です。特に、トルコは資本主義に変化したばかりで、この「責任ある消費・生産」が浸透していないので、今後きちんと浸透させないといけない、ということ指摘しています。



15 LIFE ON LAND Netherlands
Removal of greenery

Currently forested areas and parks are being replaced with buildings. This leads to an insufficient amount of space for trees and other greenery, which provide oxigen and peace of mind.


オランダでは、公園が減り代わりにビルが増えてきている結果、酸素を提供する木や緑のあるスペースが足りなくなっている。だからこそ、緑を守る必要がある、という解決策です。日々暮らしていく中で、公園が次々とビルに変わっていくオランダの風景が目に見え、離れているけれども課題の深刻さをひしひしと感じるようなアイデアです。



16 PEACE AND JUSTICE Syria
No more war

Because of war in my country and we are all of us trying to live in peace and safe. The solution is reunion.

紛争下にあるシリアの若者のアイデアです。「戦争中、私たちの国ではみんな、平和に、安全に、過ごすことを望んでいます。解決策は、「再会」です。」とても短い文ですが、だからこそ、この課題と解決策に込められた想いの強さや深さを感じ、突き動かされるものがあります。「再会」という解決策。



4 QUALITY EDUCATION Thailand
gap of education in Thai

In Thailand, there are some gap in education. Some area in Thailand like country side, student are not provided well education like student from Bangkok, capital of Thailand. So provide the equal education to all student equality, co-up rule with international organization to stimulate the world education.

バンコクのような大都市と、地方との間の大きな教育格差を、国際機関と協力しながら解決していきたい、というアイデアです。大都市で質の高い教育を受けている学生が、きちんと地方の事情にも目を向けることができる。視野・想像力・共感力をはじめ、彼の人間性を感じるアイデアだと思います。



「WAKAZO Backpacker Project」
 課題解決の波を関西から起こしたい
 一でも、私たちはまだ、世界にどのような課題があるのかさえ、知らない。
 課題解決のスタートとして、2人のバックパッカーが実際に世界を飛び回り、現地を見て、現地の人と話し、
 現地の人ですら気がつくことのできない、世界の課題を発見する旅に出ました。
 日本を出て、まずはアジアのカンボジア、タイ。そして中東へわたりトルコ、さらにアフリカのエジプト、ウガンダ、
 ルワンダ、中南米のブラジル。最後にヨーロッパへと飛び、オランダ、ドイツ、フランスを訪れました。
 現地では、現地で SDGs 課題に取り組む NPO や大学、レストランなどを訪れてヒアリングとディスカッション
 を行い、また現地の人にアンケートとインタビューを繰り返しました。
 「世界には、私たちが取り組むべき課題が、確実にある。」
 私たちが感じていた課題解決の必要性を、確信に変えた、1ヶ月の旅でした。

WAKAZO PAVILION

- 自分自身のいのちと向き合う -

私たちは、世界中の若者から集められた SDGs に関するアイデアを共有し、すべての人が自分自身のいのちと向き合い、いのちを輝かせることができるプラットフォームを実際の空間として創りたい。しかし、従来の建築空間には限界があると考えている。

そこでヒントにしたのが、エピジェネティクスという生物学の概念である。エピジェネティクスとは、DNA 塩基配列は変化せず、染色体における変化によって生じる、安定的に受け継がれうる表現型のことである。この「エピジェネティックな特性」から着想を得、いのちを問う建築を考える。私たちが創るのは、“建築自体を大きく変化させることはせず、介入する人によって完成形が変化し、普遍的な問いに対する異なる表現形を成す建築”である。私たち WAKAZO が創るパビリオンは、エピジェネティクス建築である。

SDGs には、17 種類の項目がある。今回、我々は、これらを 3 つの切り口で分類した「Saving lives」・「Connecting lives」・「Empowering lives」を採用した。それぞれに対し、2 つずつのパビリオンを提案することで、人と建築が結ぶことができる関係性についての可能性に迫りたい。これら 6 つの建築は、いのち輝く未来の都市に対する大きな布石となることを望んでいる。



晴れるパビリオン



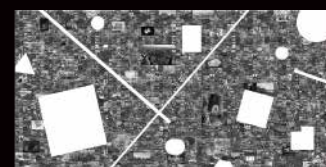
Hanging Lives

- 立地的地盤における新たな空間の可能性 -



Floating Platform

- 空気膜とテンサグリティを用いた変化するパビリオン -



祝祭の余白

- 万博敷地の余剰を用いた象徴性を纏う VOID の提案



Interactive Pavilion

- Drawing the New relation of people and objects -



物質創造実験

- エピジェネティクス建築 -



晴れるパビリオン

Saving Lives



Concept

建築はその中に時間を色濃く内在させている。

時間は空間化されることで初めて経験され、時間の経過は多くの変化を伴う。

空間の変化と人との一時的な交差は、その一瞬における特別な体験を生む偶発的要素を持つ。

それらの時間的偶発性の持つ可能性と、多様な変化によって生まれる一瞬における

人間と空間の「間」の関係性を解く実験場となる。

Architecture as Epigenetics

持続可能な社会へ豊かな時間を継承していくこと。

それは命という人間の時間の有限性を認め、

それらを繰り返すことで大切な何かを継承することである。

外的要因に対応しながら変化を許容するパビリオンは、その瞬間で存在意義が変容し、

人によりその捉え方が異なる多様性のある空間へと変わっていく。

Site

私たちが持つ有限な時間には、

「ハレとケ」の2つの時間が存在する。

都市を一時的に非日常に変容させる万博。

それはハレの場の表象である。

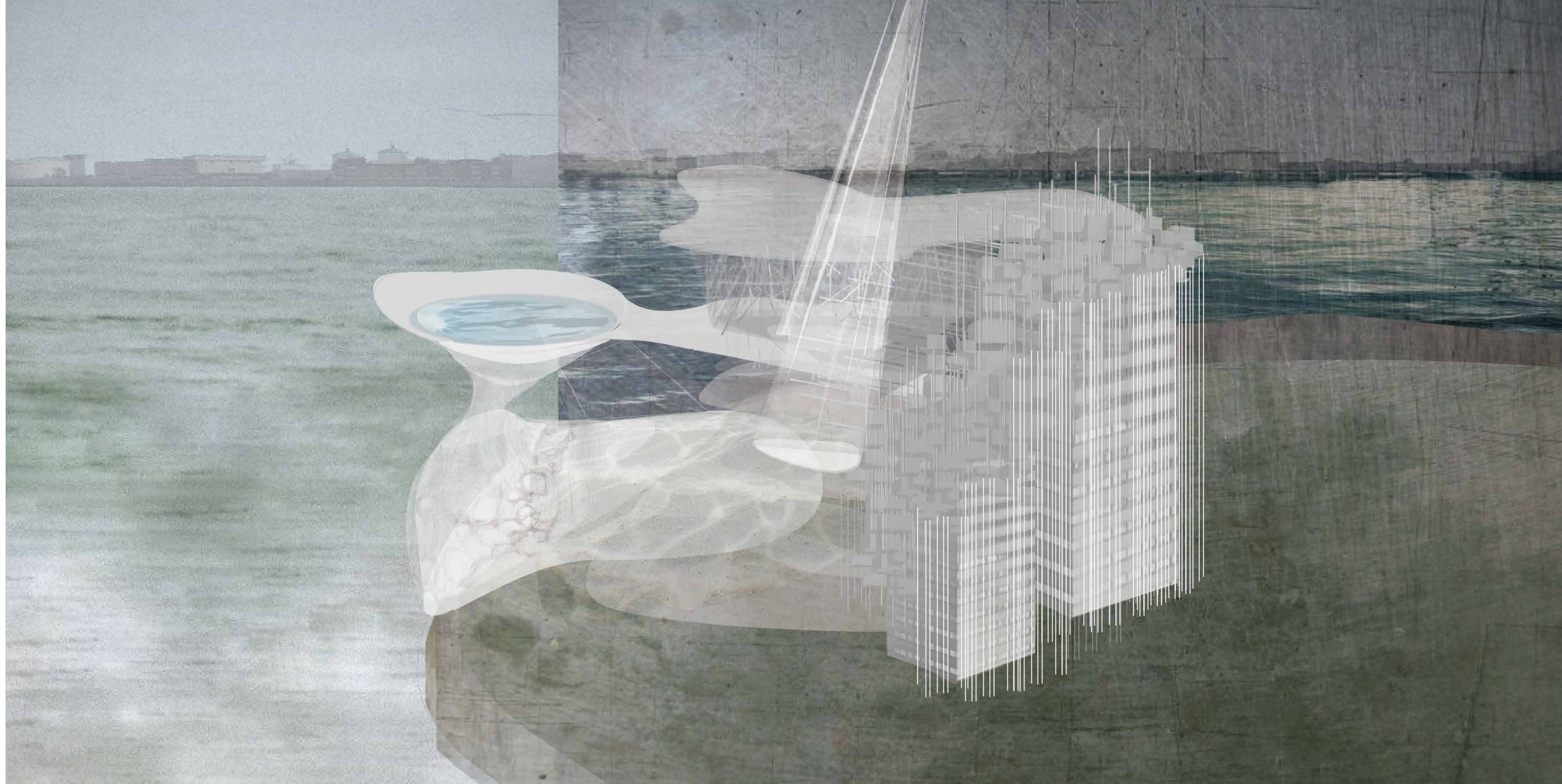
陸と海の境界にそのパビリオンはある。

万博空間とその向こう側にある日常の明確に

対比させるその場所には

日常性と非日常性が交差し同じ空間に共生する。

それは都市空間の持つ両義性である。



1. 時間と空間

技術革新と共に、人間の時間の可能性は拡張され続ける。しかし、人が生きられる時間は限られており、ひとりひとりに有限な時間が存在する。そして、建築も同じように有限なものであり時間という概念を内包している。

その中で人間は過去から未来への時間軸の中で、様々な関係からそれぞれが感情を抱き多様な答えを導きながら豊かな時間を獲得していく。

その人がらしく過ごす時間こそが時間に命を紡ぐことであり時間を感じられる空間が人らしさを感じる空間であると位置づける。

1-2 エビジェネティズム

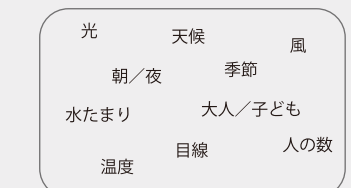
命の有限性を認め、今に適応する絶え間ない変化を許容し繰り返すことで大切な何かを継承する。

外的要因に対応しながら変化することによって持続可能性のあるものが生み出される。

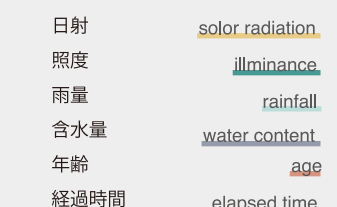
メタボリズムでは達成されなかった変化への柔軟性について解く。

2. 変化を許容する空間

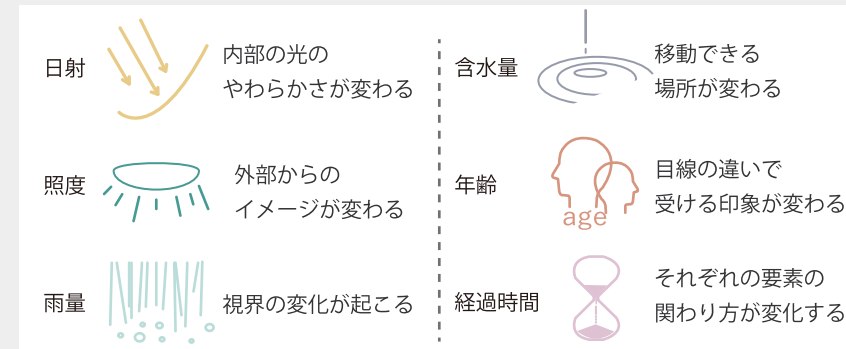
時間経過によって起こる変化



パビリオンが影響される指標



これらの変化を許容する空間を構築する

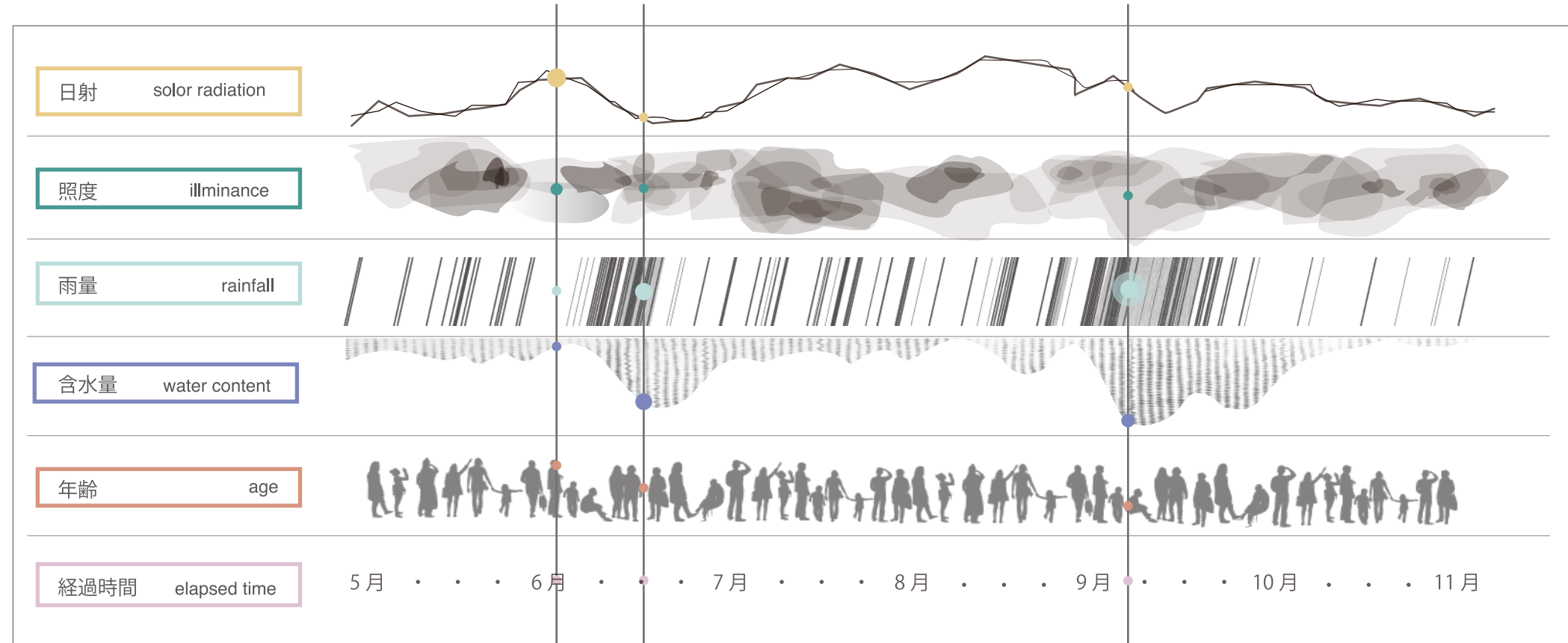


3. 時間的偶発性

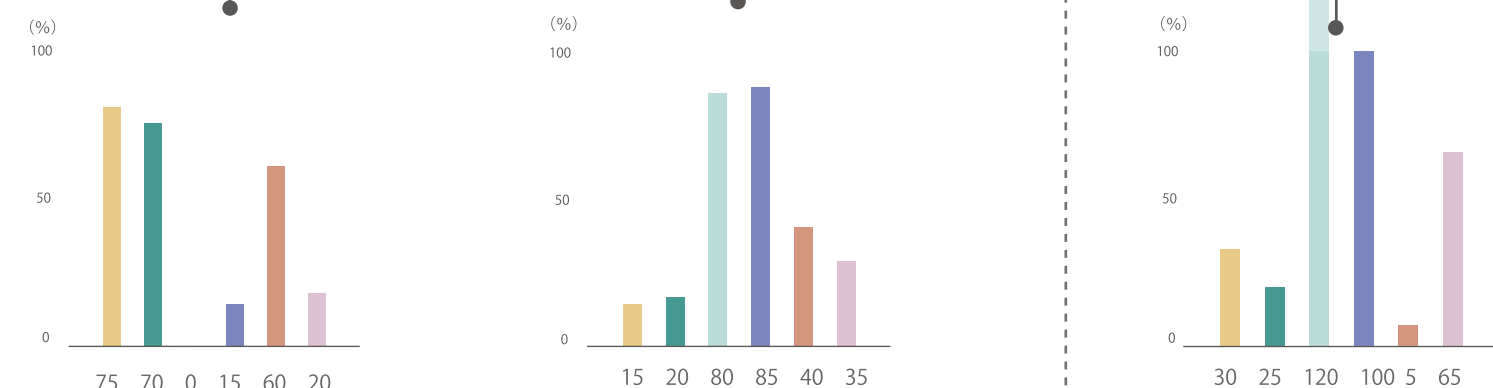
変化を起こす空間では訪れる時間によりその場の雰囲気ごとく変わっていく、偶発的要素を持つ。

時間的偶発性の中で生まれたパビリオンでは人はそれぞれ思い思いの時間を過ごす。その多様性の中の共通項が人間らしさの発見へとつながりそのための実験場となる。

4. パビリオンの時間的変化



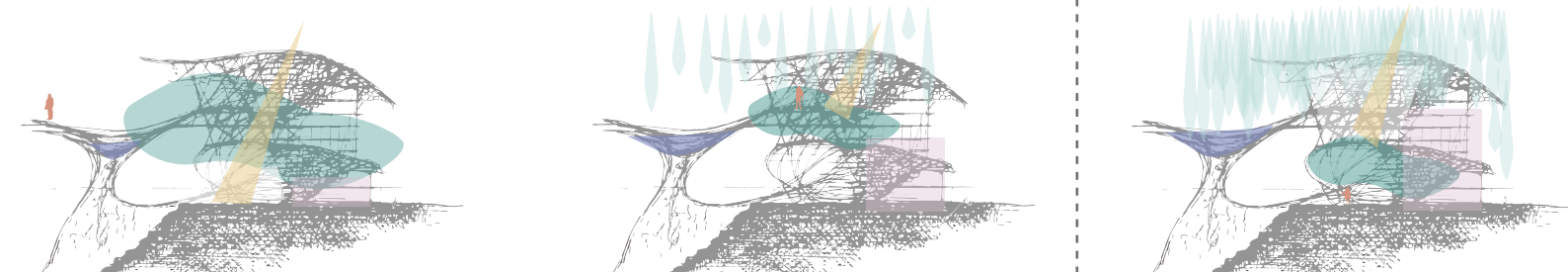
晴れの日 雨の日 豪雨の日



晴れの日、見晴らしよく展望から見える日常のケも夕焼けで美しく見えたりするかも。

雨の日、湯鬱だなど思いながらも入ってみると、少しの日差しによって透き通った上の方に登りたくなるかも。

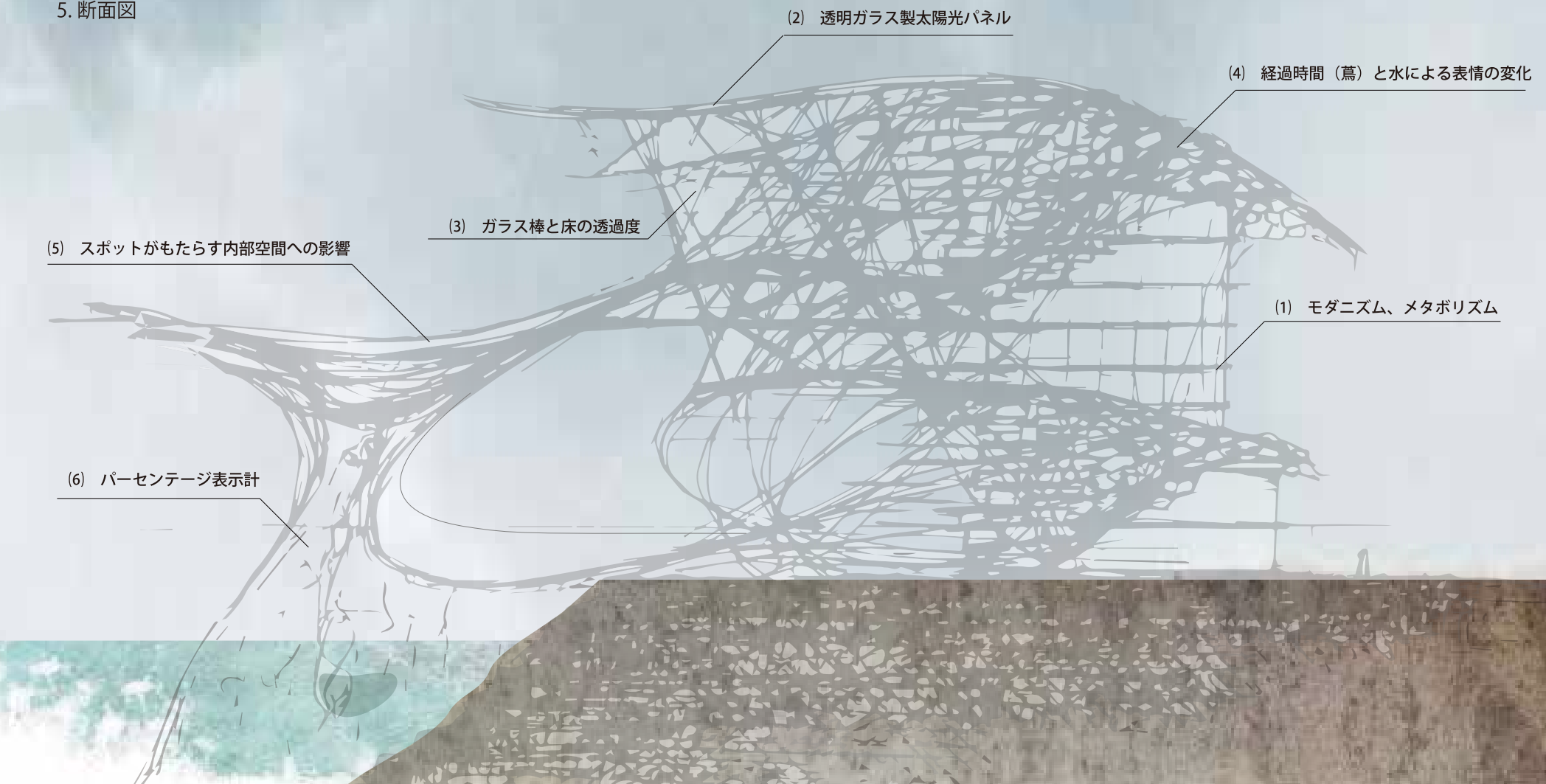
極端な変化によってパロメーターが振り切れたとき起こる変化が起こす動的影響はこのパビリオンでは瞬間的な「ハレ」であり、静的な要素は継続的に続く「ケ」である



パビリオンに変化をもたらす6つの要素は変化のパロメーターとしての役割を果たす。

その時々によって微妙に異なる要素の関係性によってパビリオンはその表情を変える。

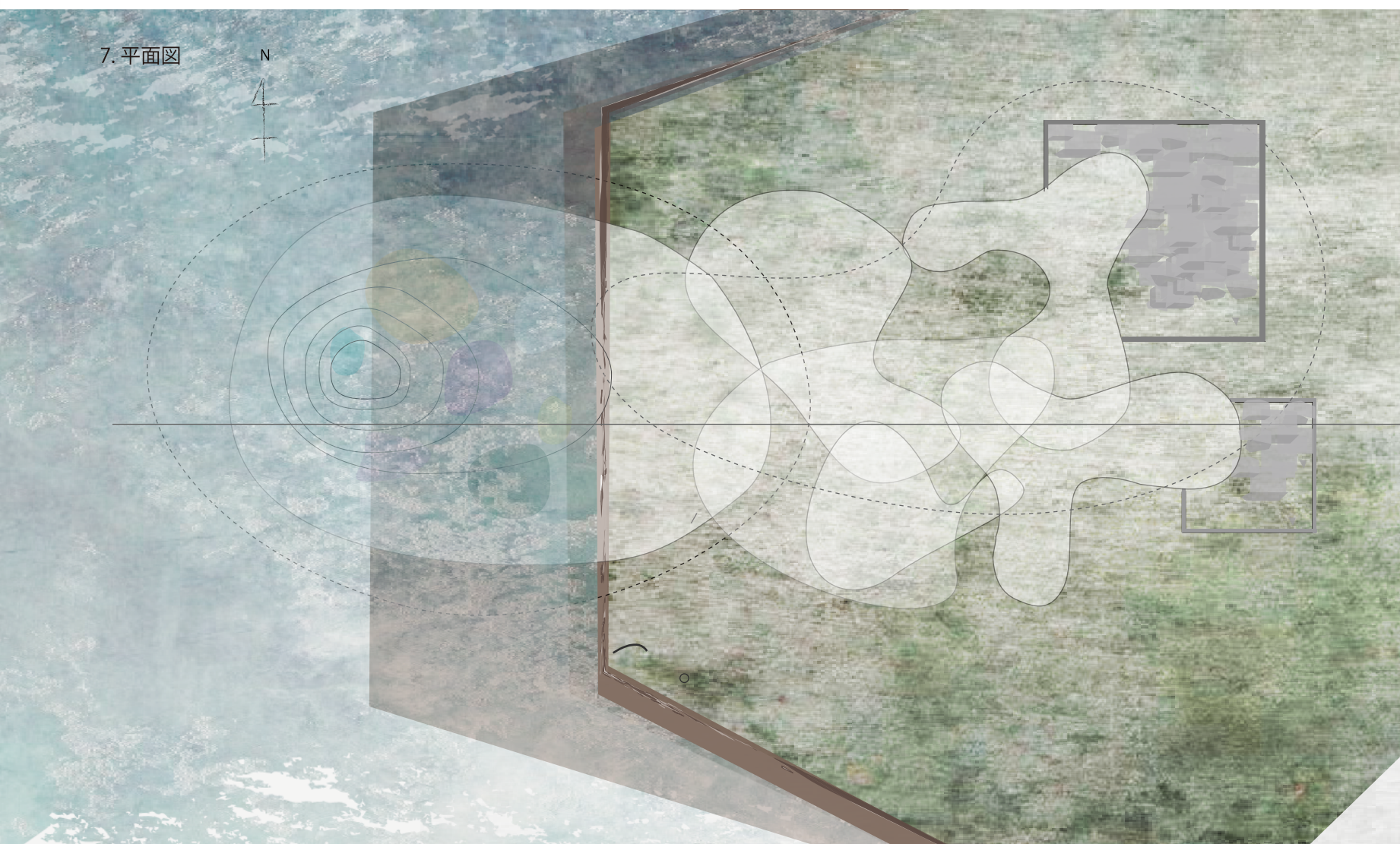
5. 断面図



(5) スポットがもたらす内部空間への影響

(6) パーセンテージ表示計

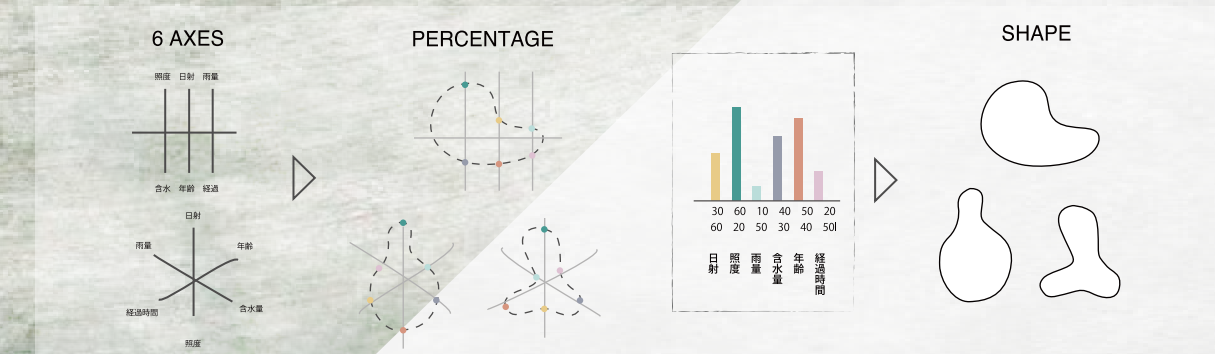
7. 平面図



8. 形のコンセプト

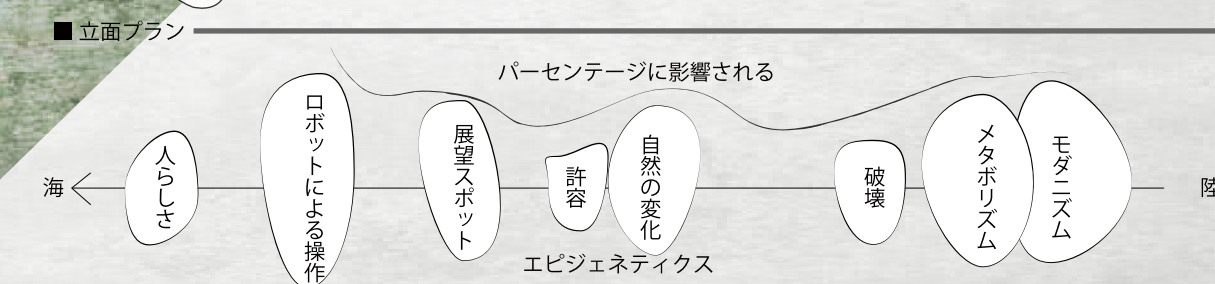
■ 平面プラン

- a) 要素【日射、照度、雨量、含水量、年齢、経過時間】の6軸に対して、ありふれた平均的なPERCENTAGEを当てはめる。
b) 要素の場所を変えながら、ありふれた日常の「ケ」から様々な形SHAPEを抽出する。
c) それらを組み合わせて平面形プランを作る。



■ 立面プラン

「ケ」から作り上げた形が6軸の止まることのない変化のなかで、変化の瞬一瞬が切り取られ、それらの集合体である空間が完成する。その瞬間の体験場「ハレ」で人々が何を受け止めどう行動するか。



6. 各所の説明

(1) モダニズム、メタボリズム

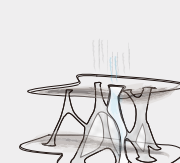


機能的、合理的に作られたモダニズム建築。また、同じものを循環させることで維持してきたメタボリズム建築。変化を許容するパビリオンであえて一部使用することで今の一般的な建築方法で良いかを問いたい。

(2) 透明ガラス製太陽光パネル

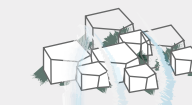
直接当たる太陽光やガラスによって乱反射した光を同時に集積し、蓄積させる透明ガラス製の太陽光パネルの素材を使用した屋根。発電率の実験も兼ねる。

(3) ガラス棒と床の透過度



晴天時は、無数のガラス棒によってガラス特有の透過がないが、雨水が棒に流れ込むことで、透過し、空間に広がりが生まれる。

(4) 経過時間（藁）と水による表情の変化



経過時間によって藁が成長してパビリオンの表情が変化し、岩の隙間から水が流れ落ち、入り口のモダニズム建築が隠れた表情になる。

(5) スポットがもたらす内部空間への影響



西側の海がひらけて見える展望空間。日差しが強い日は、海風を受けながら海を、雨が降る日には水たまりを囲うように。一般的なだが、振り切れた際には成長した藁や災害が空間に変化をもたらすかも？

(6) パーセンテージ表示計



日射、照度、雨量、含水量、年齢、経過時間の6つの要素のパーセンテージに合わせて、機械的に上下し、可視化される。

Hanging Lives

- 立体的地盤における新たな空間の可能性 -

Saving Lives



Concept

世界最先端技術の実験場としての万博。このパビリオン建設は水上に新しい陸上の生態系を創るための実験として立体地盤を仮設的につくることを目的としている。このパビリオンは構造技術、またバイオテクノロジー分野においての実験場として用いられる。メガストラクチャーによって吊るされる立体地盤では、様々な植生が繁栄しながら、人と自然のための環境が創り出される。ここを訪れた人々は建築とも自然とも分類できない世界を体験する。

Architecture as Epigenetics

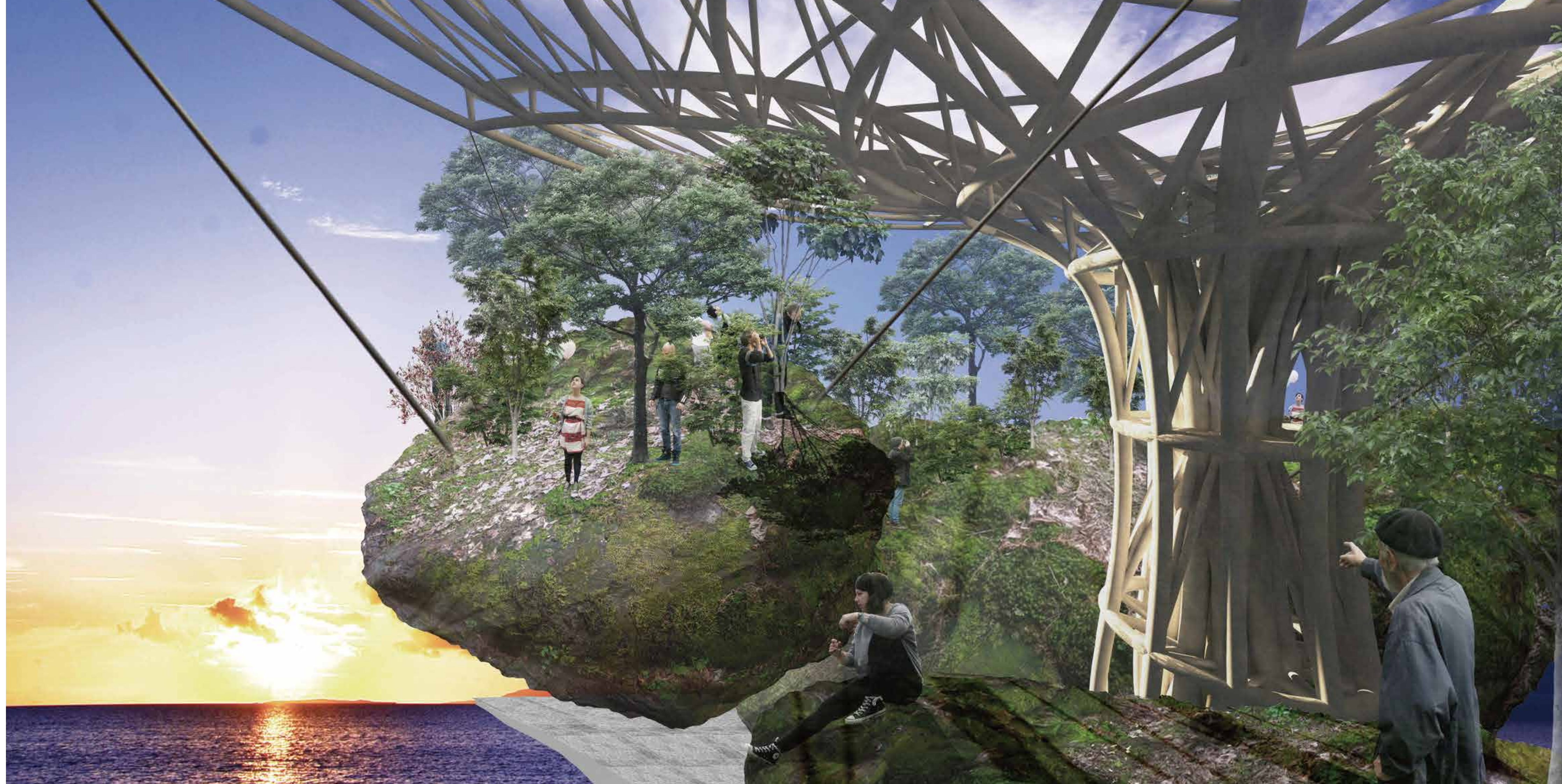
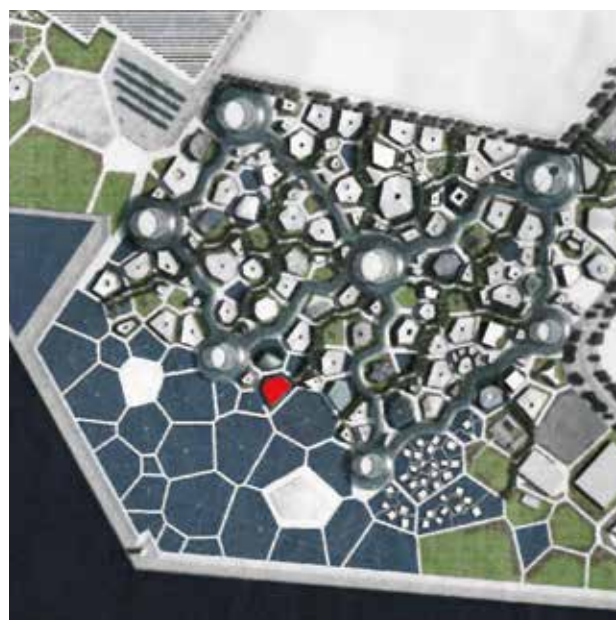
プログラムがあらかじめ決められた現代社会の建築とは異なり、エピジェネティクス建築は万博を訪れる一人一人がそれぞれの価値観を持って、このパビリオンを体感することにより非日常的な感情や行動を選択させる。このパビリオンでは、岩の荒々しさとそれらが浮遊することで得られる岩の間の新たな空間において、人々がこれまでにない空間体験をしながら思い思いの行動をする。

Site

敷地は、ウォーターワールド沿いの赤い地点を想定して設計する。

この地点は、パビリオン、広場、海の三種類の要素に囲まれた場所である。

夢州は元々が海上であった埋立地であるため、海上集落の実験場として適した敷地であると考えられる。



Concept

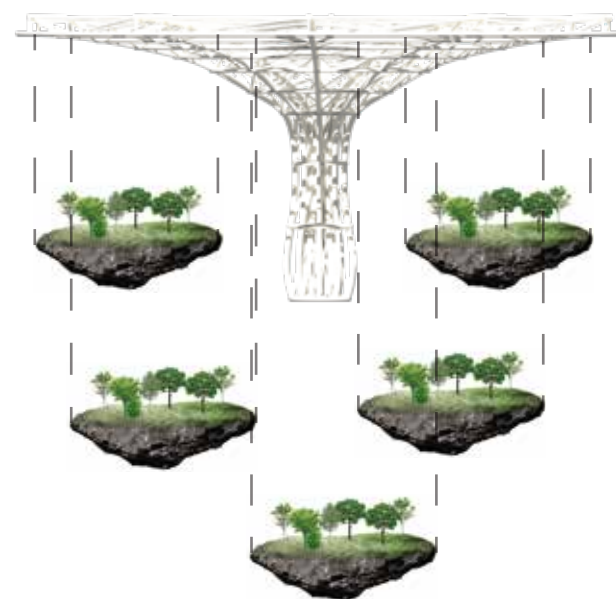
2025年大阪万博は、夢洲という埋立地すなわち元々海であった敷地で開催される。万博は世界の最先端技術が集まる一種の実験場であり、原則造りだされたパビリオンや建築たちが短期間で取り壊されるというのが特徴的である。そして、会場には世界各地から様々な人々が訪れるということもまた万博における特徴といえる。そういった大阪万博の特徴である、「海上」、「実験場」、「期間限定」、「多人数の来訪」を最大限に生かすために、本プロジェクトでは

- ・海上に陸の植生が生きられるような生態系としての挑戦
- ・人工物と自然物を合わせた建築構造としての挑戦
- ・訪れた人々それぞれが異なるような行動を誘発させる、エビジェネティクス建築という新たな建築概念としての挑戦

という3つの挑戦を掲げる。

このプロジェクトを通して、建築を新たなステージへと上昇させることを目指す。

Diagram

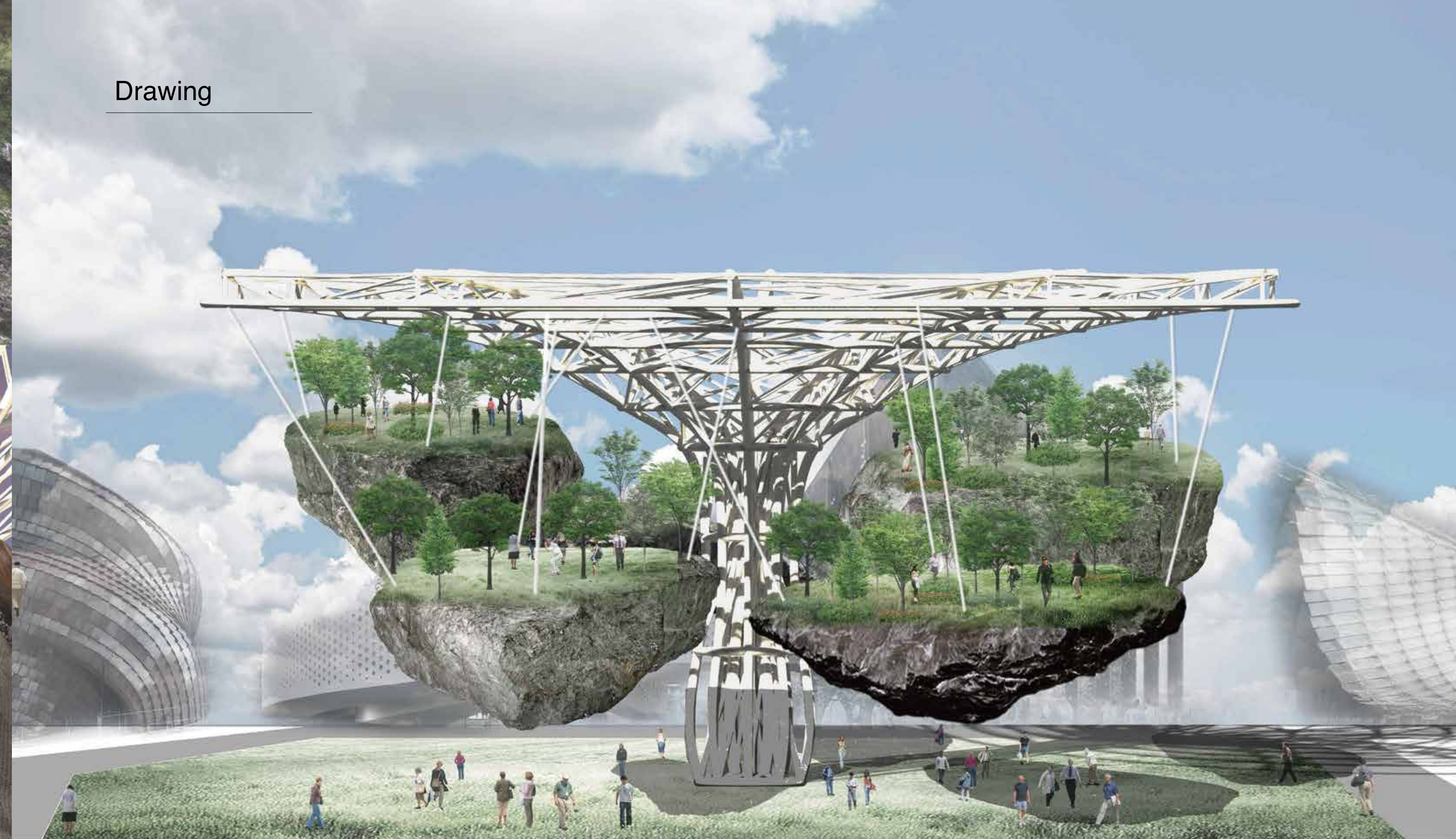


木のような形のストラクチャに、地盤が吊るされている構成。地盤の上には木々などの植物が生えており、一種の生態系ができあがる。



地上からパビリオンを見上げた様子

Drawing



ダイナミックに吊るされた立体地盤で、植物や人々が思い思いの活動を行う

Floating Platform

Connecting Lives

- 空気膜とテンセグリティを用いたパビリオン -



Concept

今までの建築は、デザインされた空間があらかじめ設けられ、そこに後から人がやってくる、というように、空間と人は切り離されてつくられてきた。

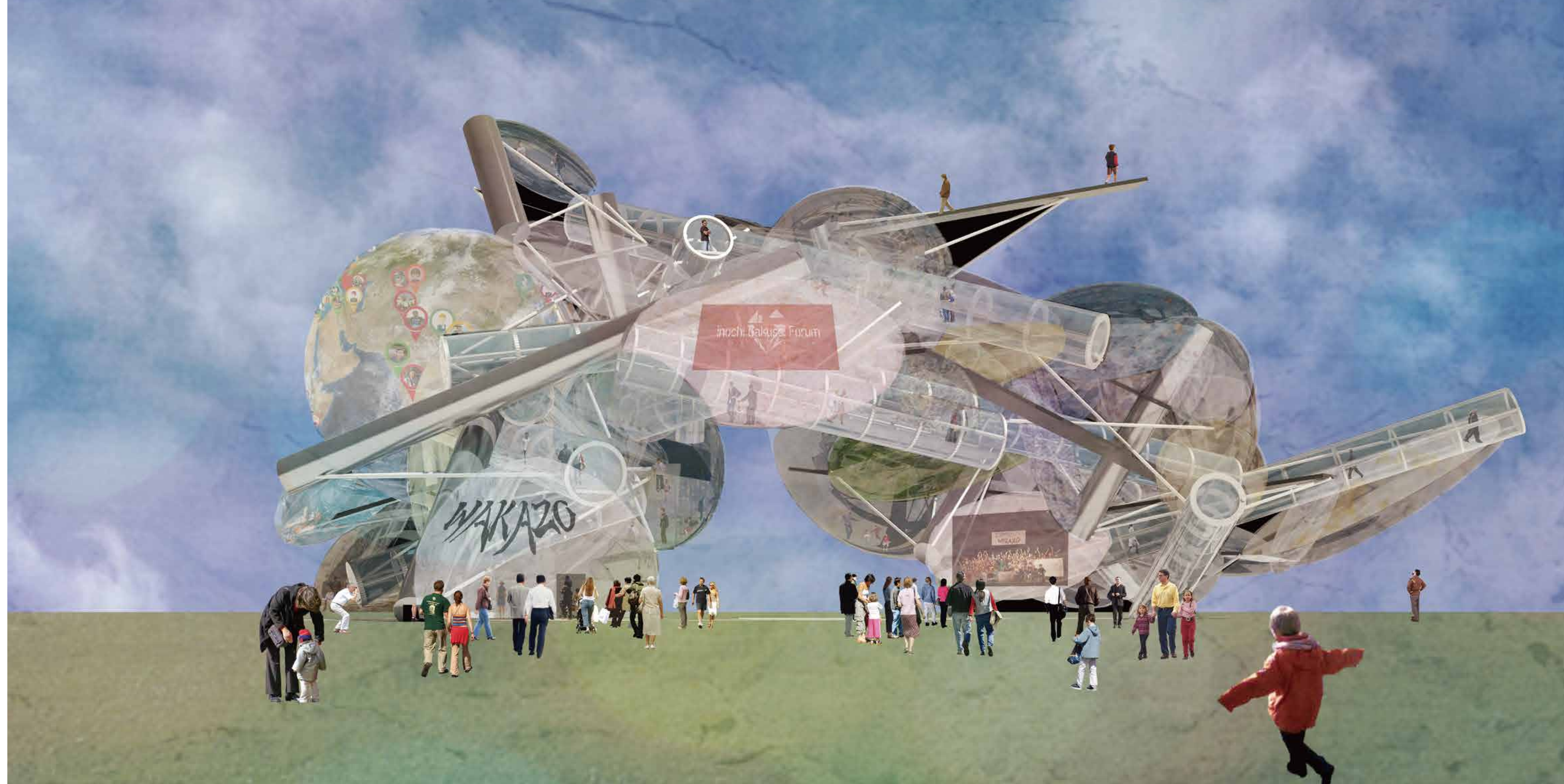
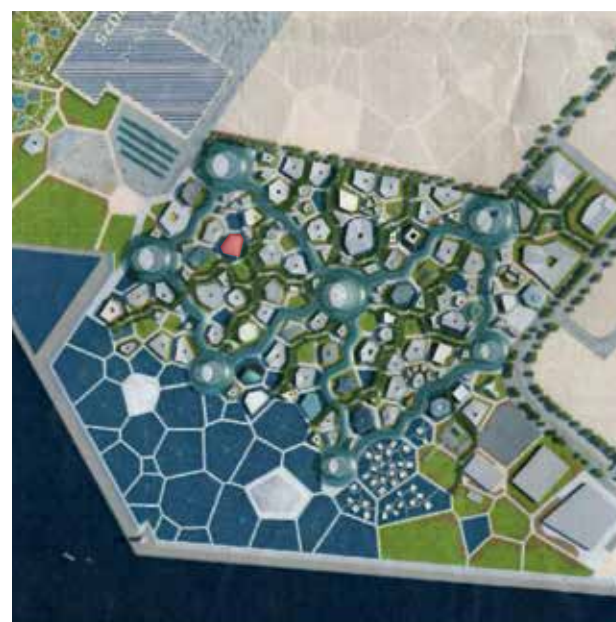
それに対し、このパビリオンでは、人の存在によってはじめて、空間が成立し、更には人の動きによってパビリオン全体の形が変化することで、その時の状況によって異なる空間体験や人との出会いを創出することを試みた。

Architecture as Epigenetics

エピジェネティクスには、DNA の塩基配列の変化を伴わずに染色体における変化によって生じる、安定的に受け継がれる表現型という特性がある。建築において、DNA として建築の構造体を、そして染色体における変化というものを、人が建築にかかわることで起きる事柄として当てはめ、同じ構造を持つ建築であっても、人の行動によって異なった現れ方をするパビリオンを考える。

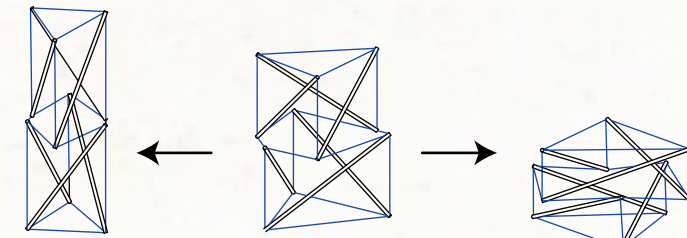
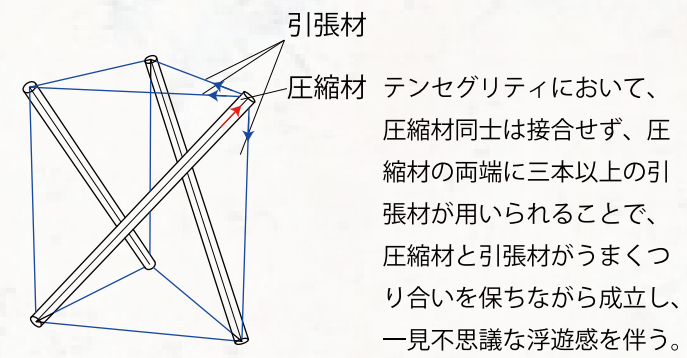
Site

この敷地は、広場とも水辺とも接しておらず、また夢洲への入り口である駅からも少し離れ、他のパビリオンに囲まれた場所にある。ここは、広場や水辺といった象徴的な場所へ向かう人々が多く通り、また様々な方向性を含んでいる場所でもある。そういったある意味ニュートラルな場所であるからこそ、素朴な DNA としての構造体があるだけのパビリオンが、人の存在によって大きく変化する様を一番大きく映し出せると考えた。



■テンセグリティ

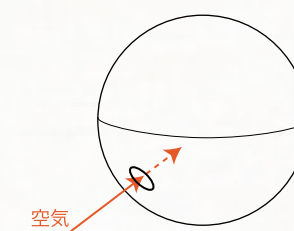
テンセグリティとは、バックミンスター・フラーにより提唱された、圧縮材と引張材によって構成され、それらの長さを変化させることで、全体の形が変化する構造体である。人体において、体が伸び縮みしたり動いたりすることは、骨と筋肉がテンセグリティの構造を成しているからであると言われている。



骨にくっついた筋肉が伸び縮みすることで、様々な姿勢をとることが可能になるように、テンセグリティ構造は、引張材の伸縮を操ることで、様々な形に変形する。

■空気膜構造

空気膜構造とは、伸び縮みする膜によって覆われた空間の内部に空気圧を掛けることによって、外部との空気圧との差により成立する構造体であり、東京ドームなどに見られるように、大空間を柱を使わず覆うことができるものとして用いられる。



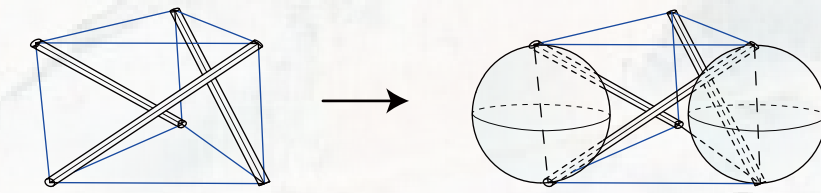
膜の表面の力関係

空気膜構造において、内側にかげられた空気圧は、膜を内側から押す力となる。それに対して、外からは外気圧に加え、膜自体が内側へ縮もうとする力がかかる。

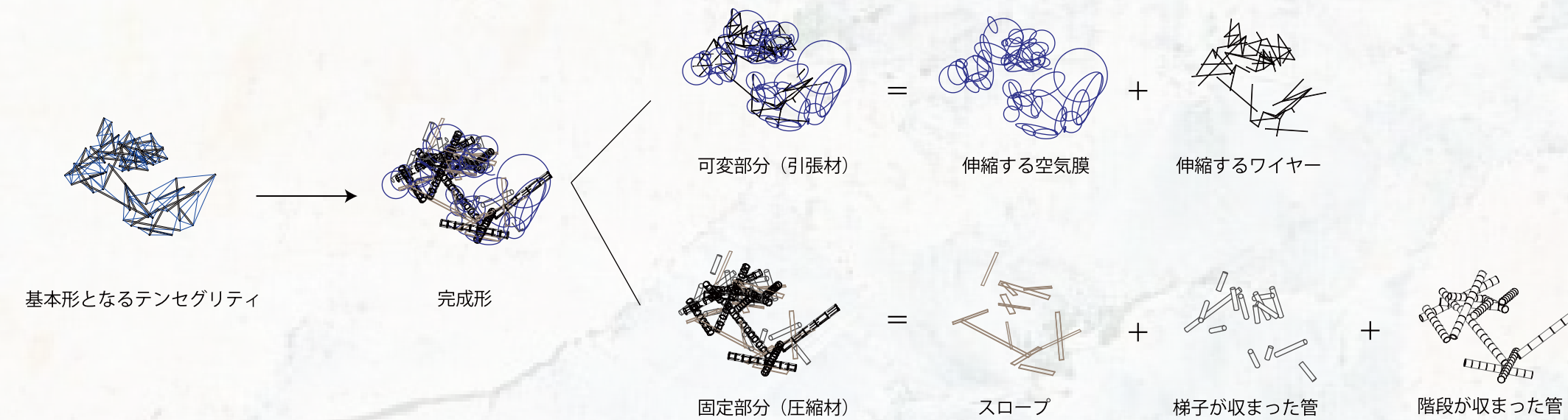
■パビリオンの構造

このパビリオンでは、テンセグリティと空気膜構造を組み合わせる。

①左のテンセグリティの図における、引張材にあたる部分の複数個所に、風船のような空気膜を持ちいる。空気膜は縮もうとする動きを持つことから、引張材の役割を果たす。



■パビリオンの基本構成



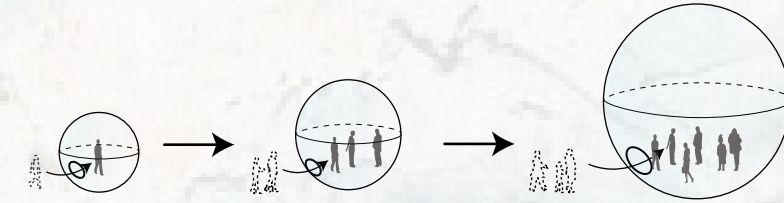
■パビリオンの変化



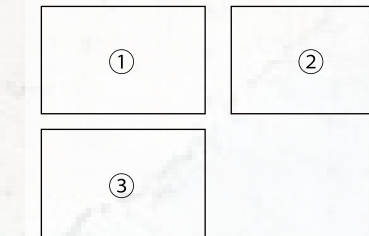
空気膜は30個近くあり、その大きさの幅と組合せにより無数のパターンの形を持つパビリオンとなる。また、人が増えるにしたがって、多くの空気膜は浮かび上がり、小さな空中都市のような場所が、夢洲に現れる。

また、このシステムのまま、様々な場所で転用することができ、各地で様々な表情を楽しむことができる。

②次にこのそれぞれの空気膜の中に入る人の数が増えると、それによって中に空気を送り込み、空気膜が膨らむようにし、より大きな空間を用意する。



③人の存在や動きにより、空気膜が膨らんだり縮んだりすることによって、テンセグリティの特性から、全体形はその都度変化するようになる。このことにより、このパビリオンは、人の存在や動き、天候によって、その都度変化していくようなパビリオンとなる。



①: 外部空間を歩いたり、空気膜の中に入って行ったりできる

②: 階段が収まった管から空気膜に直接入ることができる
これにより、いろんな場所へ移動できるようになる

③: 空気膜同士がぶつかるとそこが面になって壁になったり床になったりする
この内観パースでは、下の空気膜とぶつかり広い床ができ、横の空気膜とぶつかり壁ができていことにより、人々のアクティビティの幅が広がってくる。

祝祭の余白

- 万博敷地の余剰を用いた
象徴性を纏う VOID の提案 -

Connecting Lives



Concept

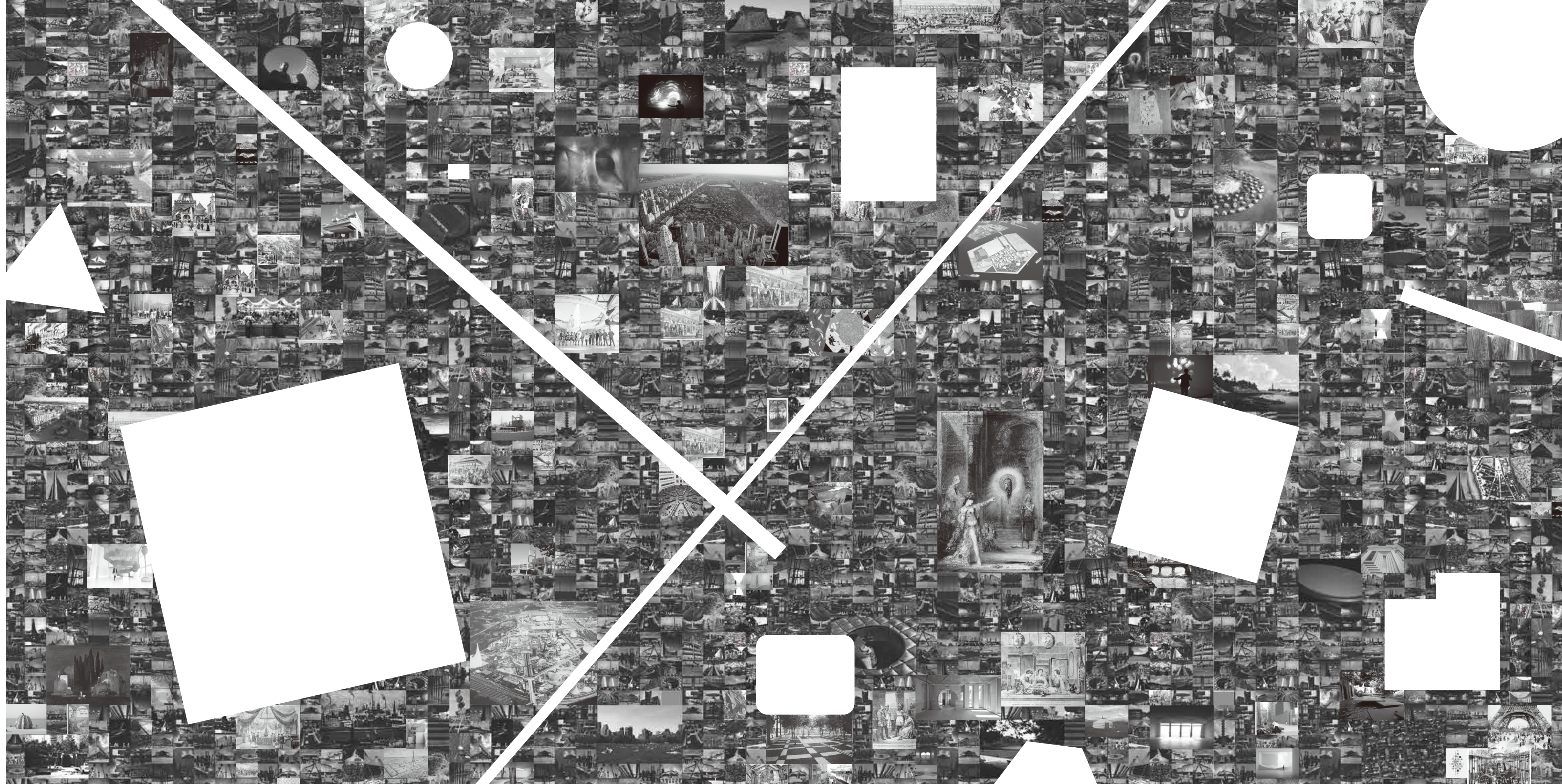
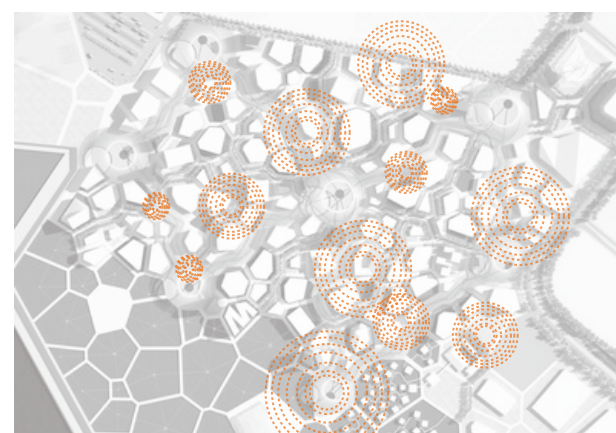
万博における象徴性とは。かつての万博における象徴は「搭」であった。
私たちは「象徴」を手掛かりに、新たなパビリオン、ひいては新たな未来社会の空間を描く。
建築が高密度化する今、「VOID」をパビリオン化する。「VOID」は変化し、許容し、アクティ
ビティの輪郭線を与える。そこは新たな万博の象徴として、未来の象徴として在り続ける。

Architecture as Epigenetics

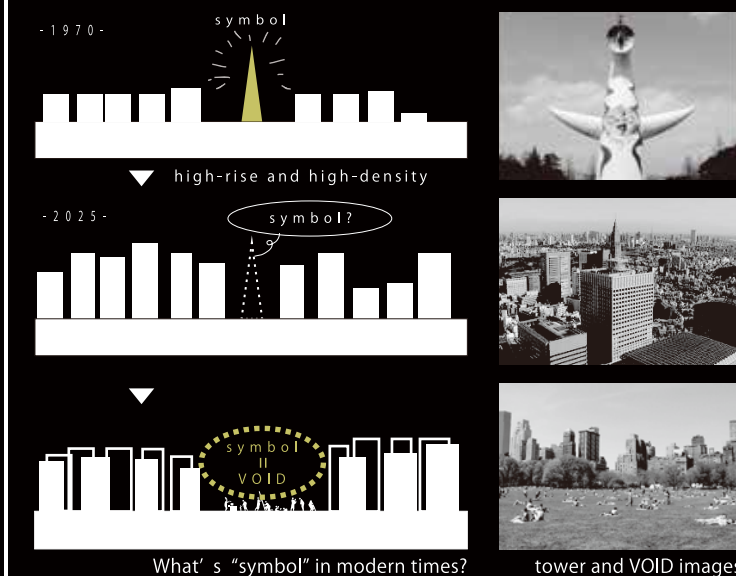
我々の定義する”エピジェネティクス建築”とは、ある物体の形態から機能は想定されな
いが、経験により空間が多様な機能を獲得し、アクティビティを混在させる仕組みである。
既往の建築計画では、ビルディングタイプや用途から想定される形態が与えられていた。
しかし、エピジェネティクス的设计手法を用いて VOID そして空間をつくることで万博を
訪れる度に異なる空間体験が得られる。これにより同様の空間でも新規性や驚きを伴う良
質な経験の蓄積されていき、継続的な新たな空間をつくるための設計手法となる。

Site

本提案は、他パビリオンの間の空間すべて
を対象敷地とする。万博会場に点在し、混
在するように配置される。長い万博の会期
において、その時々状況に応じて形態を
変化させながら万博をめぐる。



Introduction



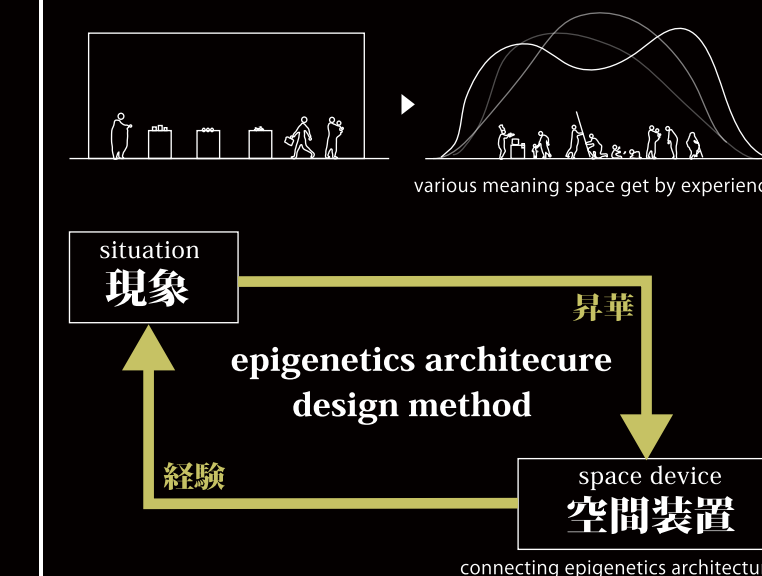
万博では、シンボリックな「塔」というポキャブラリーが用いられてきた。産業革命以降、今に至るまで「塔」の象徴性の時代であったといえるだろう。では、高層化・高密度化の進んだ現代の都市における「象徴」とはなんだろうか...? そのひとつの解答として、「VOIDの象徴性」を考える。

Research



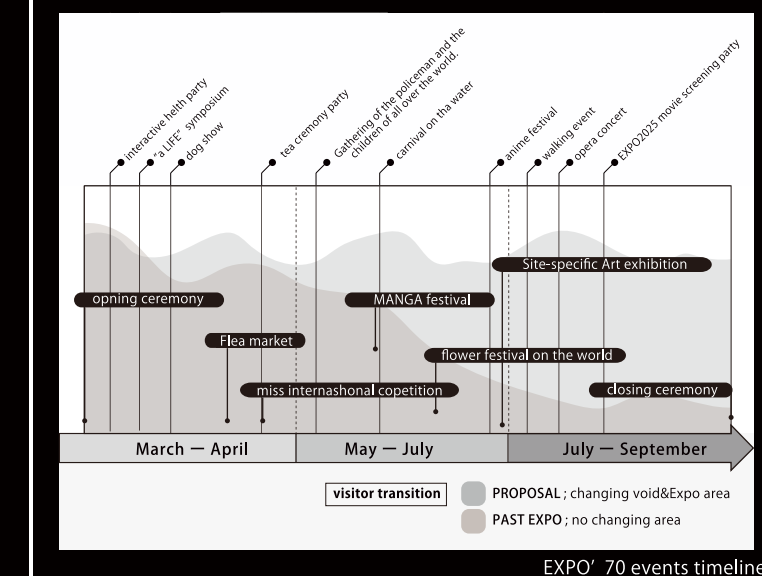
過去の万博会場では、目的空間に対し、余剰空間は動線としてしか機能せず、多様なアクティビティの受け皿が欠如している。今回対象となる「WAKAZO 館」はエネルギーや新規性、発信性を持つ一方で、知名度、集客力は低いため、他パビリオンの来場者を引き込み、偶発的接触によって新たな発見や刺激をもたらす必要がある。

proposal-1 epigenetics architecture



エピジェネティクスの設計手法を用い、余剰空間における偶発的な WAKAZO パビリオンとの出会いを生み出す。現象を読み解き空間装置が可変することで様々な経験を獲得し、それがまた新たな場の現象として立ち現れる。VOID は現象に応じた経験を踏まえた、多義的なアクティビティの混在する空間となる。(※1)

proposal-2 epigenetics architecture



万博は長い会期中で集客やサービスの状況が刻々と変化する。更に1年間で様々な行事が行われる。このように不確定要素の多い万博において固定的な建築ではなく、状況に合わせて移動する空間装置を提案する。「VOID」は周囲の現象に応じ同時多発的に発生し、activityの輪郭線となる。

proposal-2 master plan : plug in and moving VOID

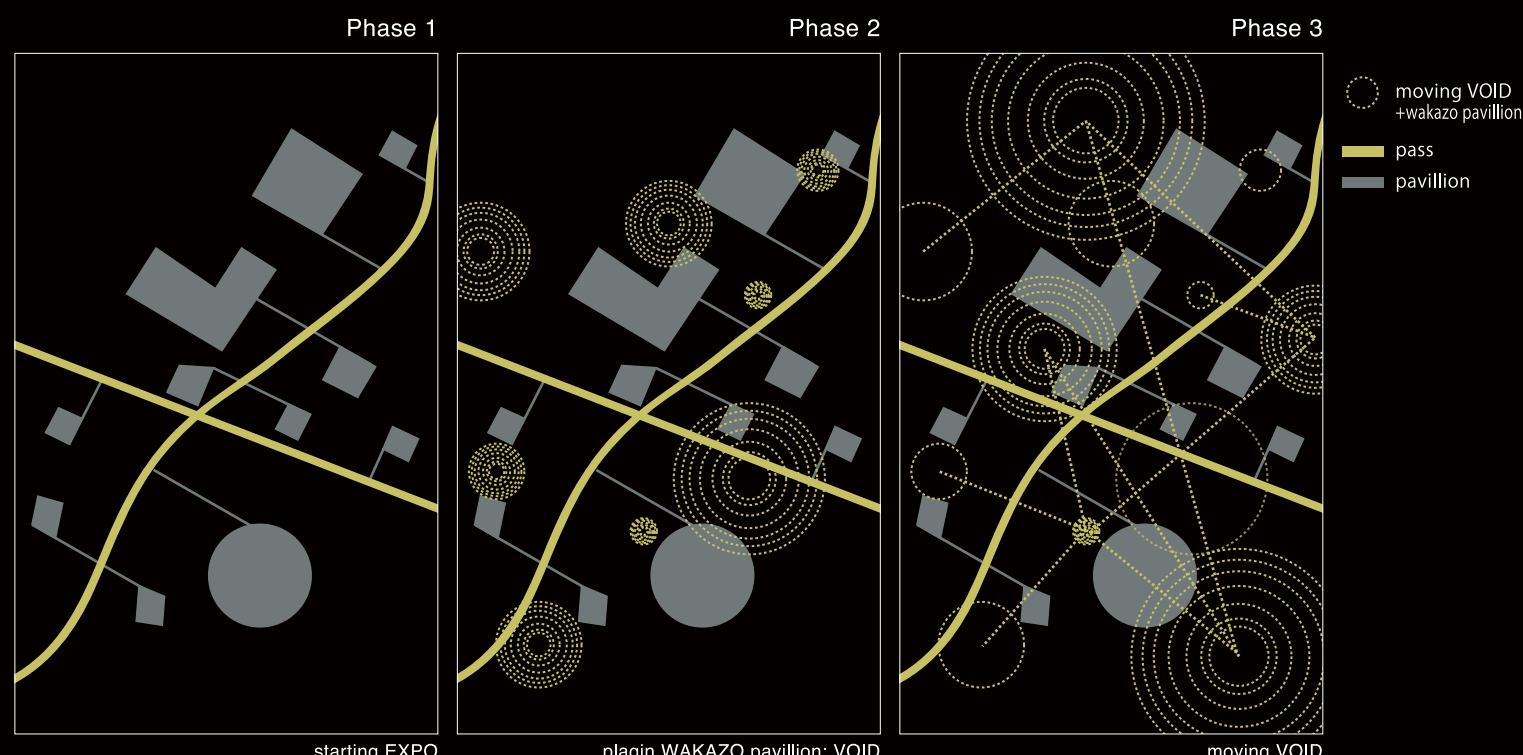
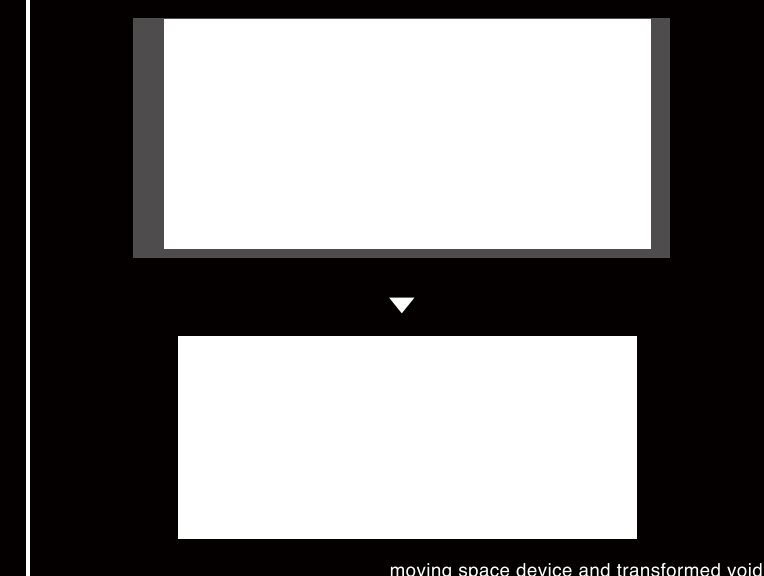
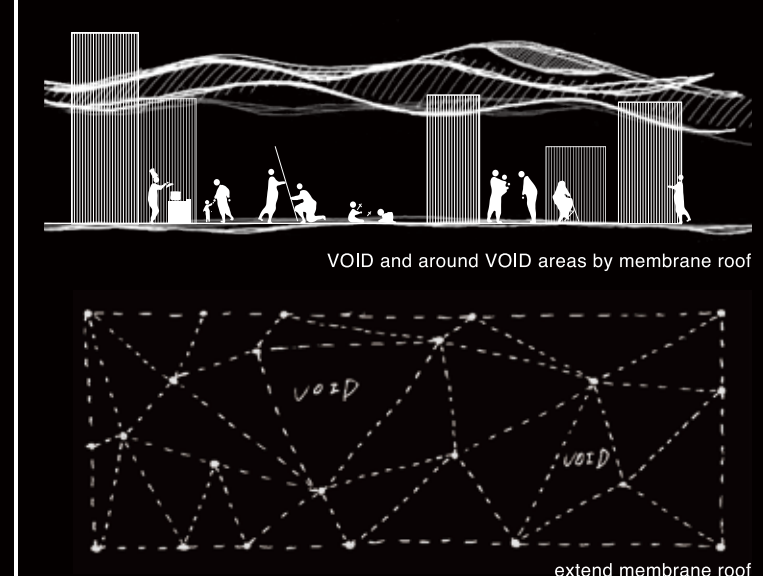


diagram-1 transformed VOID and activity



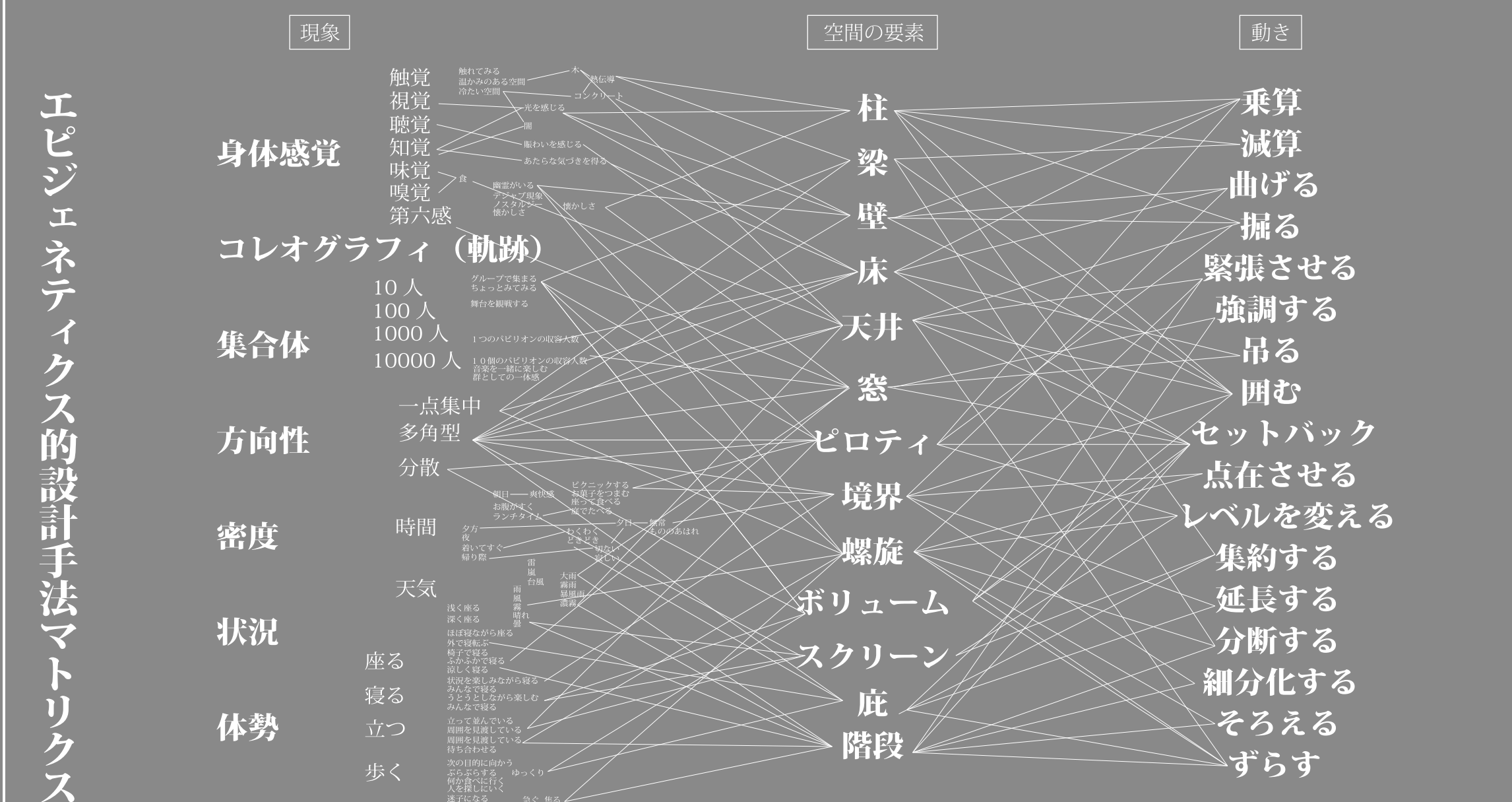
VOIDを形成するための空間装置は、屋根を支える構造体であるだけでなく、展示を行う WAKAZO の控室や来場者のためのアメニティ空間として機能し、偶発的な空間装置の利用を促す。それぞれのユニットが状況に応じて必要な場へ移動し、適切な大きさに拡張することで選択可能な空間の自由度を高める。

diagram-2 VOID is actualized by roof



空間装置は可動する構造体と膜の屋根によって構成される。伸縮性と強度を両立する膜屋根は、構造体とともに、容易に可変しながら人々を包み込む場を生み出す。屋根によって形成される領域はVOIDを顕在化し、空間装置と絡み合いながら activityの溢れる場所となる。この人の集う VOIDこそが次世代の万博の象徴である。

method (※1)



エピジェネティクスの設計手法マトリクス

Interactive Pavilion

-Drawing the new relations of people and objects-

Empowering Lives



Concept

建築を構成するエレメントは長い歴史の中で収斂され、私達の前に強固な物体として存在している。しかし、情報化社会が進む現在において、エレメントの取合いはより多様性を獲得すべきである。建築から人々に対して一方的に与える時代は終わり、人と物が相互に影響し合う関係を生み出した。それは人類が新たな扉を開くためのトリガーとなる。人々の動きや心理状態に合わせて変化するような実験的パビリオンを提案する。

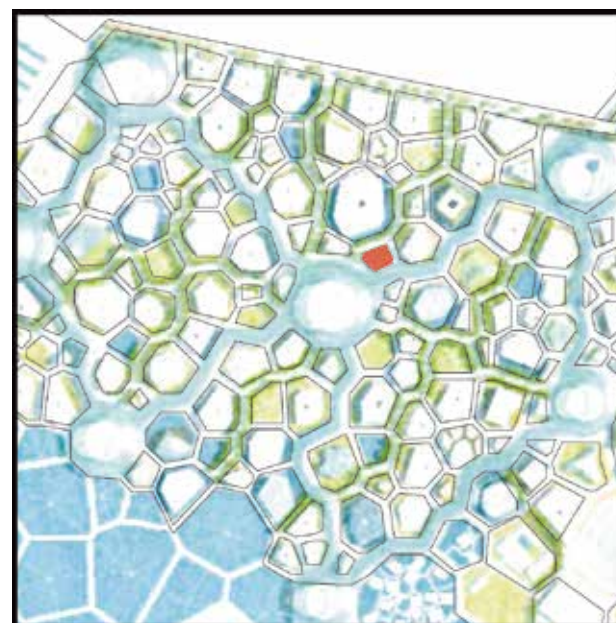
Architecture as Epigenetics

生命体は、環境や刺激などの外的な要因、体内組織の反応によって、相互作用的に新しい形態や機能を発動する。元々の構造体は変化の仕組みを持っているが、これらの要因によって物理的に何らかの変化を伴っている。この後天的な変化を建築に取り込む。物理的な変化を引き起こすのは人々であり、その変化した空間は再び人々に影響を与える。エピジェネティクス建築とはそんな人と物が相互に関係しながら動く建築である。

Site

万博会場の中心に計画する。

本計画は wakazo の展示スペースと同時に、休憩スペースや、万博会場を一望できる展望台としての役割も併設するため、もっとも人々のアクセスの良い中心に配置する。疲れた時にふらっと立ち寄り、最上階の展望スペースから大阪湾やパビリオン群を眺みながら、次に行く場所を決める。人々は日本や大阪を感じながら、同時に非日常を感じる。大阪で催される万博を楽しむ。そんなシーンがこの敷地で生まれる。



00.Prologue-History-

日本は過去に大阪万博と愛知万博を開催し、多くの人々の記憶に強くきざみこまれている。特に1970年の大阪万博では、社会の変化や人口の成長に合わせて有機的に成長する都市や建築を志向するメタボリズムを日本人建築家グループが提唱し、それに伴う多くのパビリオンが計画された。



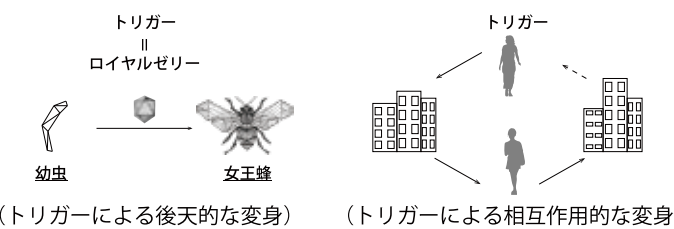
大阪万博2025

01.Theme-Experiment site-

世界の全ての人に最も平等に与えられているもの、それは時間である。時間の量と質に向き合う社会を作りたい。そのために、人の行動は多種多様であるが、それらの行為の根本にある「人間らしさ」をあぶり出す事を目指す。テクノロジーの進化により物が溢れかえっている2025年の万博で再び人に着目する。人を哲学する「実験場」を創り、理想の未来社会の礎を築く。

02.Proposal-Epigenetics-

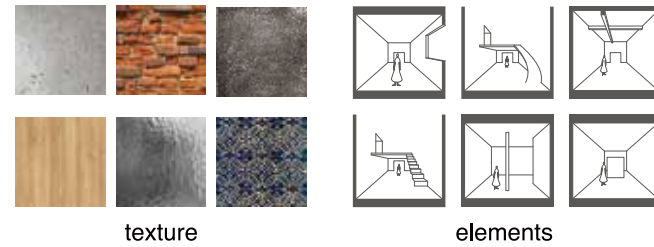
1970EXPOでメタボリズムが提唱された様に、2025EXPOではエピジェネティクスを提唱する。元々構造体を持っている変化の仕組みを、ある要因を用いて物理的に何らかの変化させる。この「後天的な変化」を引き起こすのは人々であり、その変化した空間は再び人々に影響を与える。パビリオンに来た人は実験者であると同時に被験者でもあるのだ。



実験場 LABORATORY

03.Elements-Experiment site-

建築の構成要素であるエレメントは、その取合いや使われる文法が固定化され、地域色として存在して来た。一方、グローバル化が加速する今日では、均質で且つ似た様なエレメントを有する画一化の傾向が強まっている。本パビリオンでは、今までの制約を取り払い、エレメントやテクスチャーの組み合わせを来た人がアトランダムに試行する場とする。そこに人が入った時に、空間が人に与える影響を観察する。過去には技術的な問題などによって淘汰されたエレメントの組み合わせもあっただろう。物の自律性は人にとどの範囲まで受容されるのか。性別や文化的背景などで受容度合いに違いが出るかもしれない。それを観察する実験場。

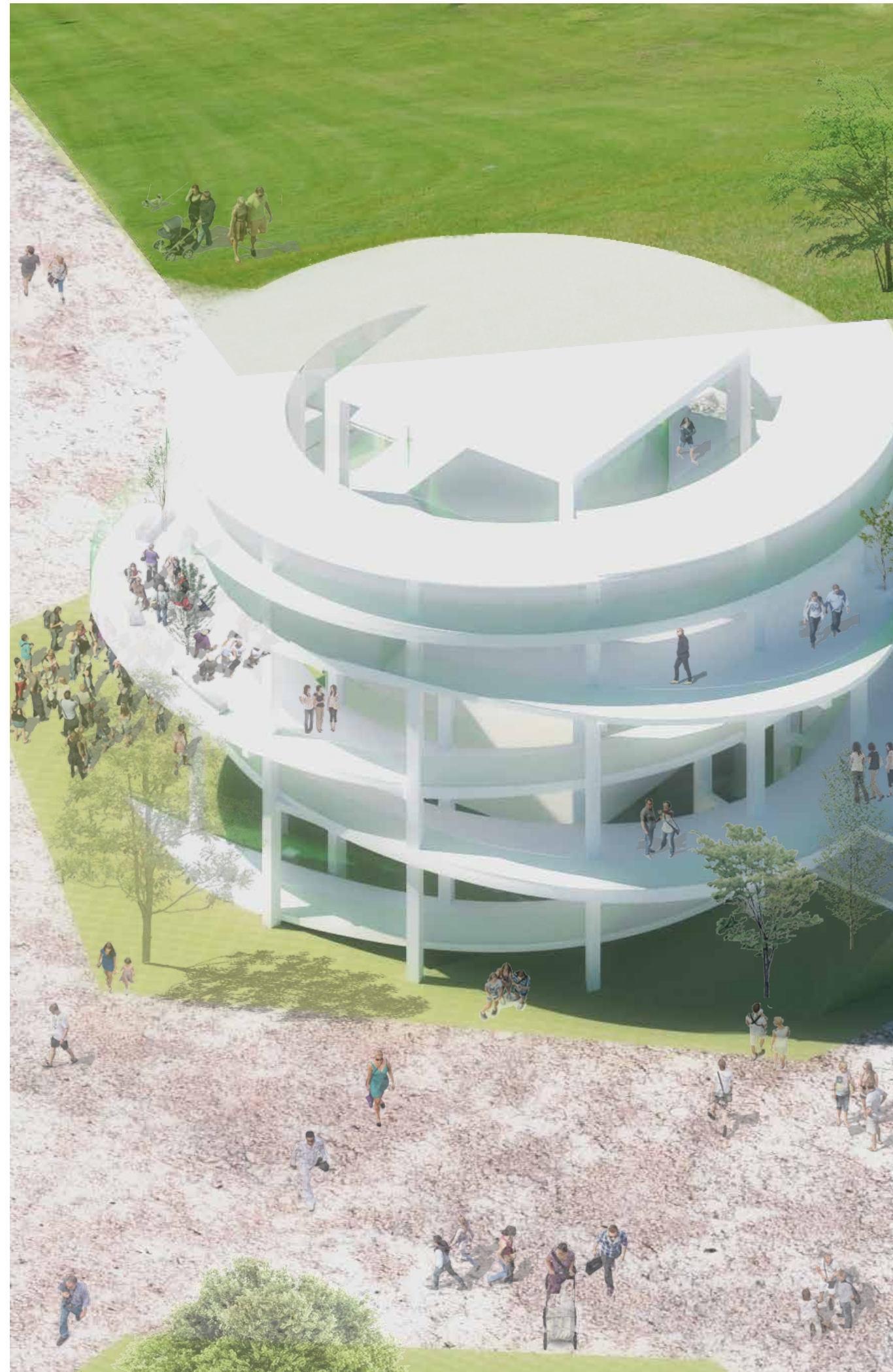
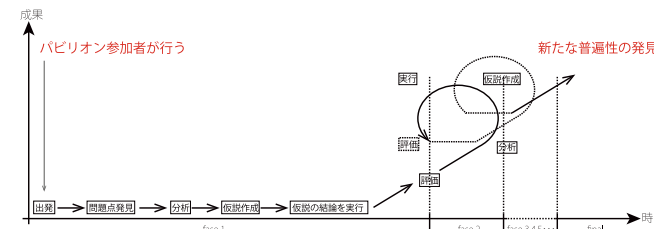


04.Moving-Epigenetics-

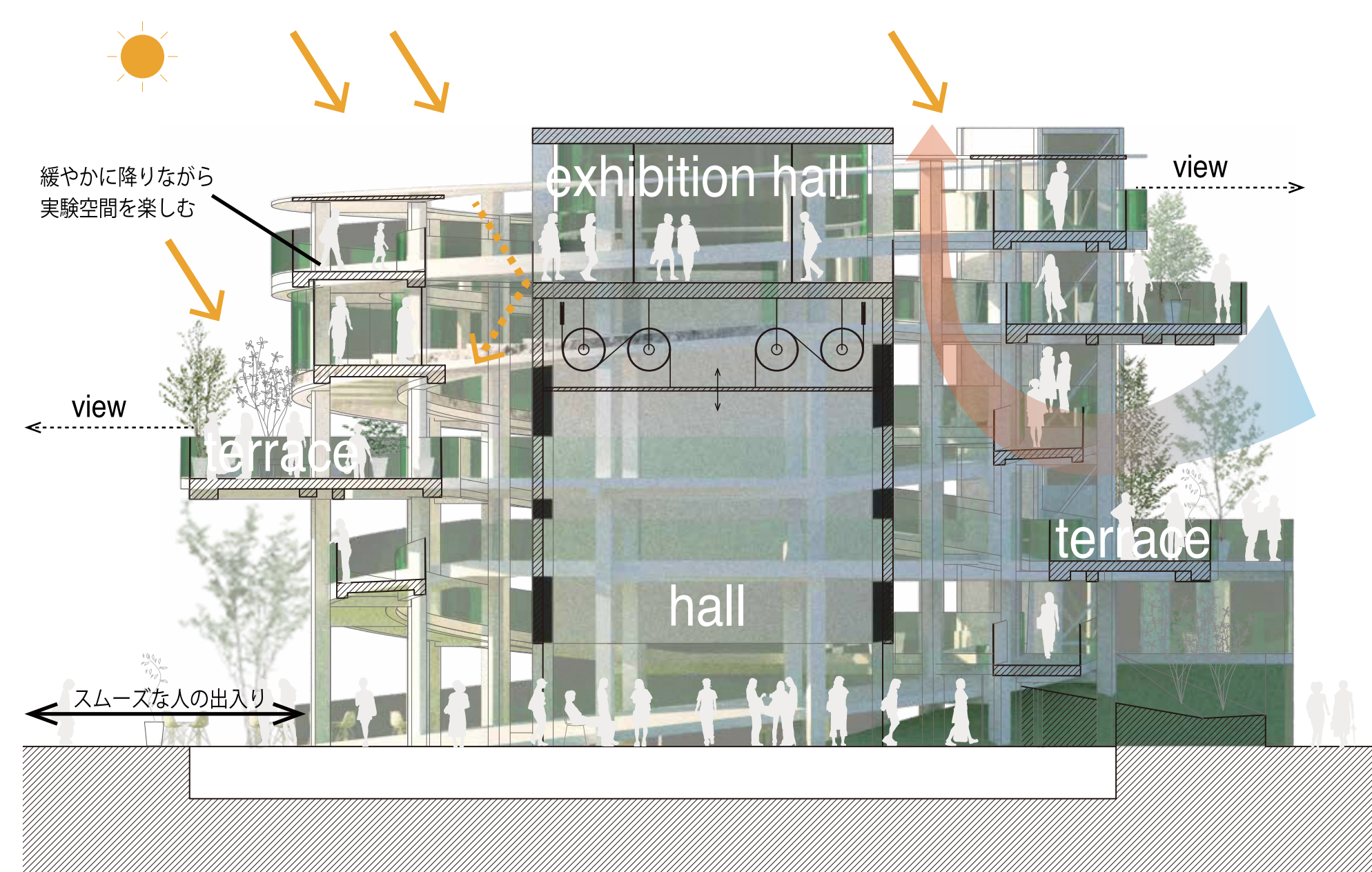
建築は一度作ると動くものではないが、技術が進歩するにつれ、環境因子等をトリガーとして動きを獲得した。しかし、その動きも建築から人へ与えられるのみで、人が建築の動くための因子にはなれておらず、一方向の関係しかない。建築のエレメントやテクスチャを動かしてみる。そこで生まれる可変空間において人々の感情は大きな振幅を持つ事が予想される。そんな状況下での人の行動や心理状態を集めることで、新たな空間の可能性と人らしさの種を見つける。

05.Consideration-Trial & Analysis-

様々な行われる新たな体験に対する人々のアクティビティを集計しまとめる。試行回数は無数で、その都度評価分析を行い、次の試行に反映させることでその結果から見える心情や行動パターンから人の本質的なふるまいを定義する。



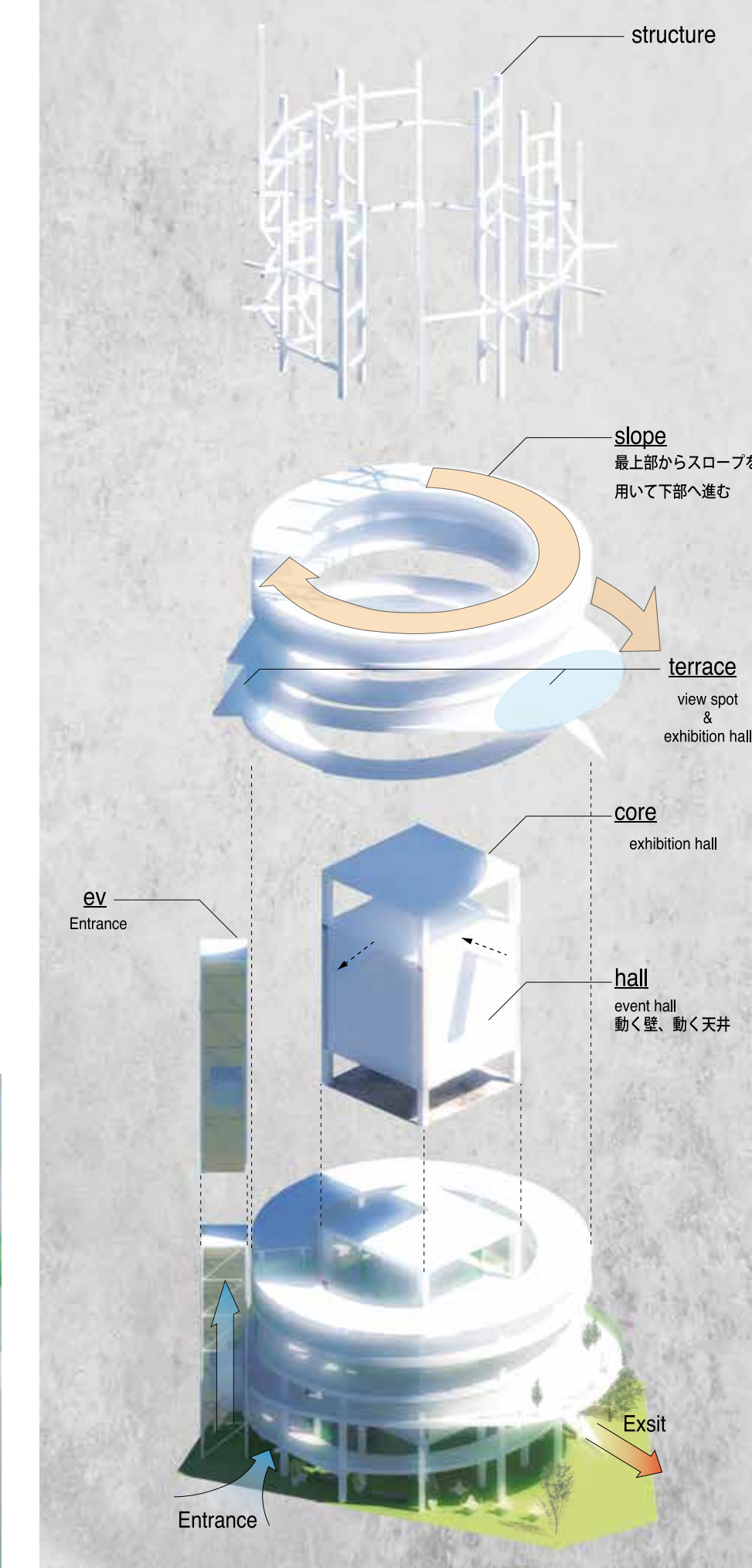
06.Diagram-Section-



07.Images-Perspective-



08.Composition-Axonometry-



物質創造実験

- エピジェネティクス建築 -

Empowering Lives



Concept

万博とは何か。私は万博とは世界各国へ最先端の技術を披露すると共に、各分野の技術力を高めるための実験場だと捉えている。1970年の大阪万博では、建築に新陳代謝という時間軸を組み込んだ概念により、可変性や増築性に対応するメタボリズムという概念を実装し、日本が建築界で世界に誇るべき概念を生み出した。そのように、2025年の大阪万博では実験的に新たな概念を実装することで、建築分野含め、あらゆる分野をもう一つ上のステージへと導けることを期待する。そして私は、2025年の大阪万博で『エピジェネティクス建築』を提唱したい。

Architecture as Epigenetics

エピジェネティクスとは一般的には「DNAの塩基配列の変化を伴わず、細胞分裂後も継承される遺伝子発現あるいは細胞表現型の変化」（後天的に決定される遺伝的な仕組み）のことである。生命現象には遺伝子（DNA）だけの性質に規定されることなく細胞の性質を確立・維持・継続・削除することで多様性を獲得する仕組みが存在する。私は物質が先行した建築に可能性を感じている。形態が先行することで、その形からどのようなふるまいが発生するかという通常とは逆のプロセスがそこに生じる。そこで発生したふるまい、それに対応するプログラムを当てはめることが、後天的に決定される遺伝子の仕組みとして、極めてエピジェネティックな考えではないだろうか。

Site

敷地はパビリオンエリア中心の右図の赤い部分を想定して計画する。

大きな広場、細い路地、他の大きなパビリオンに隣接するこの敷地には、広場の催し物を見物する人や広場に滞在する人、道を行き交う人等、多様なアクティビティの流れが交差する場と想定できる。そのようなアクティビティが物質と多様な相互関係を発生することを期待し、選定を行っている。





History

1970年3月15日～9月13日の183日間日本万国博覧会が大阪にて開催された。当時のプロデューサーは丹下健三が務め、「人類の進歩と調和」をテーマに77カ国が参加した。戦後、高度経済成長を成し遂げアメリカに次ぐ経済大国となった日本象徴する意義を持つイベントとなった。建築分野では丹下健三をはじめ、磯崎新、黒川紀章、菊竹清訓、大高正人、横文彦、大谷幸夫等、日本の建築界を代表する建築家が創造性、先進性のあるバビリオン構想を行った。彼らは、形態や機能を固定化したものとして捉えるのではなく、空間や機能が時間軸を持って変化する「生命の原理」が建築には有効と考え、日本の唯一の建築思想とも言える「メタボリズム建築」を提唱した。メタボリズム建築とは巨大な構造物に無数のユニットが差し込まれており、古い細胞が新しい細胞に入れ替わるように、ユニットをまるごと取り替えることで、社会の成長や変化に対応する仕組みである。



Epigenetics

私はエピジェネティクスの概念を建築に応用し、後天的に機能が発生する建築としての仕組みを考えている。当時、メタボリズムグループが構想を練った「メタボリズム建築」誕生の背景には生物学との深い関係がある。そのように新しく生まれる概念や思想には時に他分野からの影響がある。そのように他分野の概念を取り入れ建築を考えることが有効だと考えている。

エピジェネティクスの「エピ」とは外側、または離れてという意味で「ジェネティクス」とは遺伝学という意味である。つまり、遺伝子が外的要因と組み合わせる異なる発現が起こることによって、それを建築的に解釈すると、物質が先にあり、そこで起こる現象やふるまいを分析することで発生するプログラムとしての機能がその物質に後天的に与えられるということではないだろうか。



Object

都市のオブジェクトに焦点当てると、一つ一つ独自のロジックを持ちながらも互いに影響し合う状態が展開されている。例えば道を歩いている人がいて、突然の大雨が降った時に民家の庇をかりて雨宿りをする。その瞬間、屋根という物質の価値が突然浮上するということが起きる。そのような関係が都市の中では発生している。これは両者が明確に接続、関係しているのではなく、かといって全く無関係でもない状態である。これは関係性よりも物質が先行している状態である。そのような関係を建築手法的に構築することは可能か。左のパースは都市で発見したオブジェクトをノンスケールで並列させたものである。オブジェクト一つ一つを等価に扱うことで、物質としては同一のもので、本来の機能を無視した全く新しい機能として見えるのではないだろうか。



Constitution

都市で発見したオブジェクトの中からいくつかのオブジェクトを選定し、建築に組み込んでいる。物質 A、B、C があつた時にそれぞれ単体としての機能はあるが、それぞれが相互に関係し合うことによって A と B というオブジェクト間では別の機能を持った D という物質になっている可能性もあり、又 A と B と C というオブジェクト間では E という機能を持った物質にもなりえる可能性を包含している。それは時間帯と体験者によって異なり、一つの建築の中でオブジェクト同士が接続、切断し合うことで無数の関係性を獲得することができる。

Axonometric



Elevation



Plan



Rhizome

この建築はリゾームモデルからヒントを得て構成している。リゾームの直接的な意味としては「地下茎・根状茎」であるが、上下関係や二項対立の特徴を持つ改装秩序の「ツリー状」と反対の意味を持つ概念として定義されている。



地下茎 (rhizome)

リゾームとは不確定な状態にある諸要素が相互横断的に生成されている複雑な状態であり、階層秩序・予定調和を壊して不確定性を増している現代社会（資本主義）の現実捉えた概念である。「地下茎（根状茎）」のように複雑に入り組んでいて、特定の中心を持たずに異質な線が交錯し合っている状態であり、多様な流れが方向を変えながら延びていく不定形組織のことで、端的には現代社会高度資本主義（消費文明）のリアルなメタファーとして用いられる。ツリー状が縦断的（階層的）な縦の関係で結びついているのに対して、リゾームは横断的（並列的）な横の関係で結びついているという特徴がある。



WAKAZO 宣言

WAKAZO EARTH NEXT

- 他者のいのちと向き合う -

WAKAZO EARTH を用いた個人単位で課題を解決しあえる場の構築

私たちは、世界中の個人が各々の理想を掲げ、その理想を課題解決というフレームワークを通じて具現化していく世界を実現したい。

私たちは「他者のいのちと向き合う」をテーマに、WAKAZO.ONLINE で日本中の若者の声を、WAKAZOEARTH で世界中の若者の声を集め、問題とアイデアを可視化してきた。次なる取り組みは、課題解決に向けた行動のフェーズである。

個々の理想が社会の発展につながるためには、「いのち」を原点に据えた課題解決の在り方でなければならないと考えている。

「いのちに真正面から取り組む」。

その志のもと、課題解決をより身近なものにしていきたい。

私たちは、「いのち」という等しく有する共通の概念と向き合うすべての人々が繋がり、声を発信し合うことで、個人単位で相互的に課題を解決できる社会を実現する。

新たな WAKAZO EARTH では、世界中のあらゆる日常で直面した SDGs に関する生の言語情報が届く。そこでは誰しもが悩みをオープンに共有することができる。

悩みは世界へ共有され、その悩みを解決できるアイデアを持った者とマッチングすることで、課題解決の走り出しが完全にオンライン上で繋がることができる。

サービス上で悩みを訴えた者とアイデアを生み出した者とは連絡を取り合うことができ、課題の解決に向け、すぐにプロジェクトが動き出すことができる。

つまり、WAKAZO が提供するプラットフォームを通じて、個人々が繋がることによって、悩みの共有から課題解決に向けたアイデアの共有、プロジェクトの立案まで世界のどこにいても行われる。新たな WAKAZO EARTH を通じて、課題解決のプロセスのグローバル化、オンライン化、スピード化を目指す。

これに加えて、課題解決の源流となる理想を語るフェーズ、実際に世の中の課題を解決する社会への実装のフェーズにも WAKAZO は取り組む。

WAKAZO は課題解決の川上から川下まで、そのすべてを通じてアップデートを目指す。

いつの時代も、世界を変えるのは、若者からだ。

WAKAZO 発のアントレプレナーが 2025 日本万国博覧会 WAKAZO Pavilion にて活躍することで、課題解決の波を関西から起こしていく。

世界に若者から課題解決の更なるうねりをおこす。

個人々が主役となったすべての課題解決が、すべての人の「いのち」を輝かせる社会。

それこそが未来をより良くするはず。

WAKAZO はここに宣言する。

いのちに真正面から取り組むことを。

若者が課題解決を行う過程に存在するすべての課題を解決することを。

WAKAZO は課題解決の川上から川下まで、そのすべてを通じてアップデートを目指す。

いつの時代も、世界を変えるのは、若者からだ。

WAKAZO 発のアントレプレナーが 2025 日本万国博覧会 WAKAZO Pavilion にて活躍することで、課題解決の波を関西から起こしていく。

世界に若者から課題解決の更なるうねりをおこす。

個人々が主役となったすべての課題解決が、すべての人の「いのち」を輝かせる社会。

それこそが未来をより良くするはず。

WAKAZO はここに宣言する。

いのちに真正面から取り組むことを。

若者が課題解決を行う過程に存在するすべての課題を解決することを。

未来社会を築く

- 理想を語る人材育成と持続可能な課題解決の仕組みづくり -

あくなき理想探求の果てに未来社会は築かれる。

その理想探求のプロセスこそが課題解決であると WAKAZO は考える。

未来社会を築くには課題解決のプレイヤーたる人材が必須である。

そのプレイヤーたるのは、すべての人である。

私たちは日常生活の中で課題解決がごく自然と存在する社会を目指す。

課題解決の家庭化こそが、未来をさらに良いものにしていくと信じてやまない。

そのために WAKAZO は、教育と仕組みにも取り組む。

理想を語る人材育成

課題とは理想と現実とのギャップのことである。

モデルケースがなくなった社会では理想を語るのは容易ではなくなるだろう。

だが、理想なき世界に、課題解決なき世界に発展はない。

空想を理想に転化する新たな人材がきっと必要になる。

理想を描き、語ることで新たな未来が拓ける。

理想の中に未来は宿る。

持続可能な課題解決の仕組み

課題解決を賛美しながら、課題解決のプロセスに課題はまだ存在する。

課題は社会の中で実践、定着してこそ解決される。

だが、今の状況は課題を社会で誰しもが解決しやすい環境にはまだ足りない。

持続的な課題解決のために、課題解決に取り組む行動自体が価値となる仕組みづくりが必要だ。

持続的に課題解決が促進される社会を実現する。

社会善に対する社会活動を行うこと自体が価値になりうる未来を実装する。

課題解決が自走する社会へ。

世界を理想で満たそう。さあ、描こう。更なる未来を。

Creative Movement “EPIGENETIZM”

- 自分自身のいのちと向き合う -

私たちは「自分自身のいのちと向き合う」をテーマに、WAKAZO PAVILION を設計した。建築自体を大きく変化させることはせず、介入する人によって完成形が変化し、普遍的な問いに対する異なる表現形を成す建築”、「エピジェネティクス建築」という概念のもと作り上げた。

私たちはこの概念を建築以外の作品にも適応できると考えている。

彫刻、絵画、メディアアート、写真、映像、版画など、社会や生活を彩る多くの作品へ広がり、「エピジェネティズム」を生み出していきたい。

普通に生活しているだけで、自然と自分自身の「いのち」と向き合い、健康になることができる社会を目指す。

WAKAZO 一同





メディア掲載歴

- 2016年12月** 朝日放送 【大阪】「若者の視点を」医学生らが万博に提言
日本放送協会 学生が知事に万博に向けた提言
産経デジタル 大阪万博へ医学生ら「100の提言」ビッグデータや人口知能活用、「生き方問う万博に」
朝日新聞社 大阪)万博に若者が100の提言 五つの柱、VR活用も
毎日新聞社 大阪万博 誘致へ学生がアイデア
読売新聞東京本社 万博 若者の声生かして
日本経済新聞社 万博に若者のアイデア 大阪でシンポ、知事に100項目提言
関西テレビ放送 万博誘致に向けて 大学生らが提言
ヤフー 万博誘致に向けて 大学生らが提言
- 3月** 毎日新聞 誘致報告書案 大阪に期待と不安「若者の手で」「象徴を後世に」
朝日新聞社 万博誘致へ若者意見交換会
株式会社 新日本海新聞社 大阪本社 万博に若者のアイデアを 全国の大学生ら意見発表
- 2017年5月** 日本経済新聞 大阪万博、3都市と争う 誘致戦略練り直しも
毎日新聞 若造パビリオン、実現へ意見募集 サイト開設
朝日新聞社 大阪万博の企画、ネットで学生ら募集 WAKAZO 公開
- 6月** 株式会社ドワンゴ 「大阪に万博を！」ホリエモンプロデュースの複合エンタメイベント開催
NHK 大阪 「かんさい熱視線」いまなぜ万博か？問われる意義
関西テレビ みんなのニュース 報道ランナー (特集)大阪万博は誘致できるのか？若者から次々からアイデアも
2025 日本万国博覧会誘致委員会事務局 平成 29 年 6 月 25 日 (日) 大阪市中央公会堂東側広場にて、誘致委員会ブース
出展を行い万博誘致の PR を行いました！
- 7月** NHK 大阪 関西の学生たちが万博の勉強会
- 9月** 2025 日本万国博覧会誘致委員会事務局 「かんさい魅力物語」における万博誘致 PR のイベントを行いました。
吉本興業 大阪出身の NON STYLE が登場！2025 日本万博誘致イベント NON STYLE 万博誘致応援スペシャルトークショー
- 10月** PORTAL STREET WAKAZO CREATIVE COMPETITION パフォーマンス部門 決勝戦
- 11月** 日本放送協会 “万博に若者の意見を”計画書
2025 日本万国博覧会誘致委員会事務局 「Inochi 学生・未来フォーラム 2017」で万博招致の PR を行いました！
NHK 総合大阪 (ニュース) “万博に若者の意見を”独自の計画書提出
朝日新聞社 若者がつくる万博計画書を発表 関西学生の団体
- 2018年3月** 日本経済新聞 「大阪と恋に落ちてもらえたら」万博視察団が来阪
NHK 大阪 ニュースほっと関西
- 4月** 大阪日日新聞 第2部「万博誘致の行方」(2)
- 5月** CyberAgent, Inc. 特別編!! 「みんなで盛り上げて大阪・関西に 2025EXPO を呼び込もう！」イベント配信
大阪ベイ経済新聞 30歳以下の若者集団「WAKAZO」清元佑紀さんに聞く 若者が思う「僕らの万博」
毎日新聞 万博誘致へオールジャパンでの挑戦
日本経済新聞 大阪万博への思い届け 13日、正念場のプレゼン
産経新聞 万博誘致 “最後のプレゼン”へ「大阪万博」を若い力で、若者グループ、高校生、店主も地元から熱視線
毎日新聞 未来の若者が聞く 最終プレゼン
産経新聞 大阪万博、医療・健康アピール 山中教授ら「最終」プレゼン
産経デジタル 万博誘致 “最後のプレゼン”へ「大阪万博」を若い力で、若者グループ、高校生、店主も地元から熱視線
- 日本経済新聞 未来へ「偉大な実験場」に最後のプレゼン、日本アビール
産経新聞 【BIE 総会】WAKAZO パビリオン実現向けミーティング
経済産業省 2025 年国際博覧会の大阪・関西への誘致に向けて BIE(博覧会国際事務局) 総会でプレゼンテーション
を行いました
読売テレビ (ytv) かんさい情報ネット ten. きょうのトップ / 大一番 2025 年万博誘致へ大阪 “最後のお願い”
読売テレビ (ytv) かんさい情報ネット ten. きょうのトップ / 正念場 万博誘致 最後のプレゼン ノーベル・ピカチュウ
評価は？
- 6月** 朝日新聞 健康の最先端 大阪万博 PR
毎日新聞 未来 若者が聞く 京大医学部生ら訴え
毎日新聞 最終プレゼン 未来、若者が聞く 京大医学部生ら訴え
読売新聞 大阪万博で未来描く
Bureau International des Expositions (BIE) Expo 2025
Bureau International des Expositions (BIE) Russia, Azerbaijan and Japan present World Expo 2025 projects
Japan International Cooperation Agency Member/ Citizens' Group/ NGO/ NPO/ Other
Leadership Nigeria Newspaper World Expo 2025
- 7月** ヤフー 学生団体総選挙、最優秀賞は「Inochi 学生プロジェクト」
(C) フォ・コーポレーション 「Boys&Girls, Be Ambitious! 世界で学ぼう! 2018」
- 8月** NEC Corporation 官民連携で取り組む「データシティ関西」の魅力とは ~5 名のキーパーソンが明らかにした「実証
事業」の課題と可能性
- 9月** 大阪日日新聞 万博で最先端医療発信 開催国決定前にシンポ
The Yomiuri Shimbun Osaka, Osaka-Kansai Expo Bid Expo gateway to social reform solution
ぶいぶいネット WAKAZO 「若」者が『造』るから「WAKAZO」
- 10月** 経済産業省 2025 年国際博覧会の大阪・関西への誘致に向けて万博誘致フォーラムを開催しました
2025 Japan World Expo Committee Secretariat WAKAZO
EXPO2025 NEWS 「WELCOME to OSAKA~EXPO2025」第 6 回目は、万博若者集団「WAKAZO」を迎えて万博トーク！
大阪日日新聞 未来の鍵 第 2 部 (下) 誘致カウントダウン
読売新聞 大阪万博 いのちの祭典
- 11月** 毎日新聞 秒読み EXPO2025 もう一度 O S A K A / 2 課題に挑戦しよう

